



# むくどり通信

2020. March

No. 262

# 3

特集

都市で暮らすハヤブサの生態を追って

日本野鳥の会大阪支部



# 特集 都市で暮らすハヤブサの生態を追って

2004年にきららタウン泉大津のホテルのベランダでハヤブサの営巣・繁殖が確認されてから早くも16年目を迎えました。街中でのハヤブサの子育てを見守ろうと日本野鳥の会大阪支部の有志とホテルの関係者などが中心となって「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」を立ち上げ、2006年から見守り活動や観察を続けてきました。

巣を見守るために設置した固定カメラを通じて、産卵から孵化、ヒナの成長、巣立ちの様子やハヤブサのペアの世代交代などが観察されました。今回は15年にも及ぶ観察記録を振り返って都市で暮らすハヤブサたちの生態に迫ります。



## CONTENTS

2020. 3 No262

- 2 特集 都市で暮らすハヤブサの生態を追って
- 14 小山慎司の日本列島鳥見旅
- 16 身近な鳥から鳥類学  
第51回 チョウゲンボウ全国制覇への道
- 17 鳥ガールのぐぜり
- 18 例会報告 / 室内例会報告
- 21 そんぐポスト / お年玉クイズの答え
- 22 研究ダイアリー
- 23 鳥信 こんな鳥観たよ オオハム、ヘラサギ、  
ニシセグロカモメ、レンジャク情報 他
- 26 幹事会報告 / 特別緑地保全地区の計画決定にあたって
- 27 次号予告 / 編集後記
- 28 イベント情報

### 表紙の鳥 ハヤブサ 泉大津市 2019. 6. 5

ハヤブサの幼鳥たちは巣立って数日を経過すると、飛び方も随分上手になってきます。飛行訓練は親から見守られながらや、幼鳥同士でじゃれ合いながら行われたりします。

「餌の空中での受け渡し」は幼鳥たちが生きていくうえで最も大切な能力のひとつです。写真はメス親の「そら」が幼鳥に食べ物を空中で渡しているところです。 写真 席間実千男

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページ  
(<http://www.ne.jp/asahi/hayabusa/izumiotsu/>)

では、これまでのハヤブサの観察記録を多数の画像とともに紹介しています。

また、「子育て見守りカメラ」のライブ映像をリアルタイムで配信しています。ぜひ、ご覧ください。

# 泉大津のハヤブサ ～ 2014 年から 2019 年の観察記録～

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部

## ■繁殖するハヤブサを初めて確認

2004 年 5 月 9 日の毎日新聞の記事でハヤブサが泉大津市のホテルで繁殖していることを初めて知りました。ホテル(当時の名前はサンルート関空:1996年竣工)の 18 階のベランダの一角のドバトの繁殖によって堆積した糞の山を利用しての繁殖でした。

その年に確認されたヒナ 2 羽は無事に巣立っていきました。のちにメスの親を「なぎさ」、オスの親を「きらら」と命名、ホテルの従業員や近隣の住民、日本野鳥の会大阪支部のメンバーによる観察がはじまりました。

## ■メス親なぎさの失踪

### 2005 年(平成 17 年):なぎさ(♀)・きらら(♂)

なぎさときららのペアは卵を 4 個産みましたが、メスのなぎさに何らかのトラブルが発生したのか、途中で抱卵を放棄してしまいました。メスのなぎさはおそらく、巣外で事故にあったと思われます。

そののち、別のメスがやって来てペアを形成しましたが、その年は繁殖しませんでした。

## ■2 代目メスいずみときららによる繁殖

### 2006 年(平成 18 年):いずみ(♀)・きらら(♂)

「泉大津ハヤブササポート倶楽部」を結成し、ハヤブサの繁殖期に当たる 2 月から 6 月にかけて観察会を実施、観察と保護啓発活動を開始しました。

2 月 1 日にはハヤブサの巣のあるホテルのベランダにリモートカメラを設置し、インターネットを通じて送られてくる画像を見ながら、観察を開始しました。また、泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページを公開し、巣の中の状況をリアルタイムに観察できるようにしました。

この年は 3 月 11 日には 2 個、3 月 15 日には 4 個目の卵が確認されました。4 月 16 日には 2 羽のヒナが誕生、4 月 18 日は 4 羽目のヒナが誕生しました。

4 羽のヒナは揃って順調に成長し 5 月 25 日、26 日に 1 羽ずつベランダから巣立っていきました。5 月 29 日には 1 羽のヒナが隣の工場敷地内降り立ち、工場で働く人に救出されるという事件がありましたが、幸い怪我もなく無事に巣のあるベランダに戻されることになりました。

これを契機に、巣立ち時期の見守り活動の強化を図るようになりました。通常野鳥のヒナは拾わないが基本ですが、ここでは例外的に地上に落ちた幼鳥を拾って、巣のあるベランダに戻しています。

残念ながら 4 羽の内 1 羽は巣立った直後に行方不明となりましたが、残された 3 羽のヒナたちはホテルの周辺で活発に動き回り、ホテルのロゴマークの上に



2004 年に撮影されたペア。左:なぎさ♀、右:きらら♂



2006 年に巣立った幼鳥たち



2007 年のペア 左:いずみ♀、右:きらら♂ いずみは、「ハヤブサひげ」と言われる頬のバッチが非常に太く黒い頭巾をかぶったように見えたことから、雌雄の判別は容易だった



2007 年生まれたヒナたちと幼鳥

3羽が並んで留まる様子も観察されました。

この年、11月には大阪支部が「泉大津ハヤブサ・レポート2006」を発行。あわせて福井県からハヤブサ研究者である松村俊幸氏を招き「ハヤブサ保護シンポジウム」を大阪支部と共催しました。

### 2007年(平成19年): はずみ(♀)・きらら(♂)

1月20日、ハヤブサの繁殖用の巣皿を設置しました。これまで、ハヤブサはベランダに積みあがったハトのフンの山を巣として利用していましたが、そのまま放置することに問題があるため、ホテルの了解を得て、ハトのフンを取り除き、代わりに、巣皿(ペット用のトイレのトレー)を用意し、巣皿の内側にハヤブサが止まりやすいように岩をモルタルセメントで固定し、巣皿の中に小石を敷き、表面には砂を入れました。

巣の様子が大きく変わりましたが、ハヤブサは新しい巣皿と止まり用の岩を気に入ってくれたようです。2個の卵を産みヒナ2羽が孵化しましたが、巣立ち直後に1羽が事故死。1羽が無事に巣立ちました。

### 2008年(平成20年): はずみ(♀)・きらら(♂)

ハヤブサ4羽が無事に巣立ちました。5回目の子育てで挑戦のうち最もスムーズに子育てができたのではないかと思います。4羽の幼鳥たちが、きららタウン内だけでなくフェニックス埋立地や駅前のタワーマンションの屋上などで見られる期間があり、多くの方がその様子を観察されました。

きららタウンでの幼鳥の最終確認日は7月11日でしたが、はずみときららは、ほぼ毎日巣のあるベランダに現れていました。

## ■はずみの負傷と3代目メスそらの登場

### 2009年(平成21年): はずみ(♀)・きらら(♂)

#### ⇒そら(♀)・きらら(♂)

波乱万丈の1年でした。はずみときららのペアによる子育てが順調に始まりました。4個の卵を温め始めて14日目にはずみが負傷。大阪府の担当部署に連絡し、はずみと抱卵中の卵4個を保護しました。保護された4個の卵は篤志家の人工ふ化で2羽のヒナが誕生、そのうち研究施設で育てられて放鳥されました。はずみについても保護されたのち、動物病院で療養生活を過ごしました。

はずみが居なくなったのちに現れたN子(♀)ときららはペアリングが形成されず、その後現れた”そら(♀)”とペアが形成されました。

前年と比べると約1ヶ月遅れで再スタートしたきららタウンでの子育てでしたが、3個の卵が無事に孵化し巣立ちました。そのうち1羽は巣立ちに直後にセンタービルの窓ガラスに激突、墜落して死亡しましたが、他の2羽はのちに近くのフェニックス埋立地で狩りをしているところの確認されました。



泉大津ハヤブサ・レポート2006 (A4、45頁) 2006年11月発行 大阪支部のホームページおよび泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページで、全文をご覧いただけます。



2008年生まれのヒナたちに餌を与えるはずみ♀。



2009年途中からの新たなペア 左:そら♀、右:きらら♂



2009年5月 孵化後まもないヒナと新しいペア(奥そら、手前きらら)

## 2010年(平成22年):そら(♀)・きらら(♂)

3月8日に第1卵を産卵。そらときららで交代で抱卵し、4月16日、17日で、3羽のヒナが誕生しました。ヒナたちはすくすく成長し、5月28日に2羽、29日に残りの1羽が巣立ちしました。最初に巣立ちした1羽は残念ながら30日から行方不明になってしまいましたが、あとの2羽は、そらときららから飛翔や餌の受け渡しなどの訓練を受けながら元気に成長しました。

その後9月9日、巣立ち直後に行方不明になっていた幼鳥と思われる1羽も、他の1羽と一緒にいるところが近くのフェニックス埋立地で観察されました。

## 2011年(平成23年):そら(♀)・きらら(♂)

3年前年から見られるようになったベランダの手すりの上での交尾はこの年は更に多く観察されるようになりました。その様子は概ねパターンが決まっていて、2羽で巣にやってきてそらは手すりに残り「ホェーホェー」と聞こえる声で鳴き、きららが巣の中からそらを見つめる姿勢が長く続き、ある一瞬きららが巣を飛び出しそらの背面を旋回して交尾に入るというものでした。この行動パターンから、あとの交尾を予測して固定カメラを操作し、確実に交尾の様子をとらえることができました(ホームページの観察日記には多数の交尾写真を掲載)。

3月6日に第一卵を産卵。13日には第4卵目を産卵しました。前年より2日早いペースで抱卵が始まりました。そらがほぼ独占的に抱卵し、4月13日に2個、14日、15日にそれぞれ1個が孵り、4羽のヒナが誕生しました。巣の中でひしめき合いながらヒナたちはすくすく成長し、5月22日に3羽の幼鳥が、24日には最後の1羽の幼鳥が巣立ちました。6月1日には1羽の幼鳥が高速道路に落ちて死亡、6月2日にはきららが翼を負傷して一時はどうなることかと心配しましたが、幸い傷は浅く6月5日は無事が確認されました。

そらの訓練を受けて、ようやくひとり立ちできるようになった若ハヤブサ3羽が見えない範囲まで飛んでいくようになりました。7月になると、そらときららの平穏な日々が戻ってきたようです。

この年は、NHKの人気番組「生き物新伝説ダーウィンが来た」の番組制作班が2月から6月までの間に、合計約6週間の取材にあたられました。ホテルベランダへの専用の高画質カメラの設置から始まり、きららセンタービル屋上からの撮影、阪神高速道路泉大津パーキングからの撮影、マンション付近からの撮影、ゴルフ練習場付近での撮影、フェニックス埋立地での撮影など、泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部として応援体制を取って協力してきました。

取材された映像は11月に放映されきららタウン泉大津のハヤブサ一家が一躍全国に知られることとなりました。



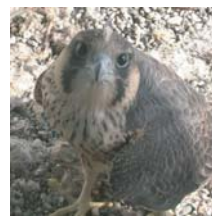
2008年に巣立った幼鳥(4羽)



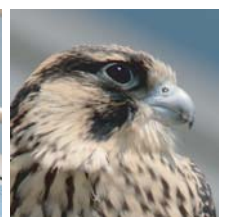
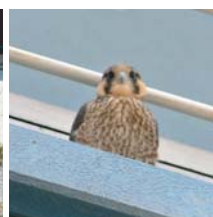
2009年に巣立った幼鳥(3羽のうち2羽)



2010年に巣立った幼鳥(3羽)



2011年に巣立った幼鳥(4羽)※うち1羽が巣立ち直後に事故死



2012年に巣立った幼鳥たち(4羽のうち3羽)

### 2012年(平成24年):そら(♀)・きらら(♂)

3月11日、第1卵を産卵。12日、14日、16日と順調に産卵をして、前年同様4卵が揃いました。抱卵は順調に進み、4月17日に3羽、翌18日に1羽、4羽のヒナが無事に誕生しました。5月25日には1羽の幼鳥が巣のあるベランダから巣立ちました、5月27日には残りの3羽も巣のあるベランダから巣立ちました。6月末現在、前年のような事故もなく、4羽の幼鳥たちは元気でした。

### 2013年(平成25年):そら(♀)・きらら(♂)

3月5日に産卵を開始し、順調に4卵を産卵していましたが、抱卵を開始してから6月19日で100日になりました。卵が死んでいること、これから暑さが厳しくなり、そらときららが抱卵を継続することにより衰弱することも想定されることから、環境省の担当部署に連絡し、卵を取り除きました(2013.6.21)。残念ながら、この年の子育ては失敗となりました。

### 2014年(平成26年):そら(♀)・きらら(♂)

2月7日交尾が初めて確認されました。3月11日、13日、16日、18日と産卵。4月17日、18日で3羽が誕生。第4羽目は遅れて4月24日に誕生しましたが同26日に死亡。5月27日、28日で3羽が無事に巣立ちました。

### 2015年(平成27年):そら(♀)・きらら(♂)

1月22日の交尾確認。3月3日から10日にかけて4個の産卵を確認しました。4月10日、11日、12日と順調に孵化し、4羽そろって成長しました。5月20日から22日にかけて巣立ちを確認。そのうちの1羽が巣立ったその日に高速道路上で車に轢かれて死亡。残りの3羽の幼鳥はそらときららから訓練を受けながら逞しく成長し、7月初旬頃まで近辺で観察されました。

### ■初代オスきららの失踪・きららⅡの登場

### 2016年(平成28年):そら(♀)・きらら(♂)

#### ⇒そら(♀)・きららⅡ(♂)

3月1日から9日にかけて4卵を確認しました。抱卵57日目の5月4日を最後にきららが行方不明となりました。5月8日、抱卵開始から60日を経過しても孵化しないので、環境省の担当部署にへ連絡して卵を取り除きました。

5月23日、新しいオス(きららⅡ)が見守りカメラに写り、24日にはそらときららⅡの巣の中での挨拶行動が観察されましたが、この年の繁殖は失敗でした。



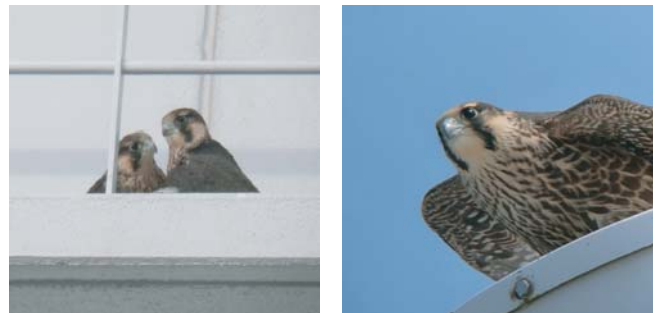
2014年に巣立った幼鳥(3羽)



2015年に巣立った幼鳥(4羽)※うち1羽は交通事故死



2016年途中からの新たなペア 左:そら♀、右:きららⅡ♂



2017年に巣立った幼鳥(2羽)※2卵は孵化せず



2017年に巣立った幼鳥(2羽)※体の大きさの違いから「ちーちゃん」「えるちゃん」の名前で親しまれた

## 2017年(平成29年):そら(♀)・きららⅡ(♂)

1月8日、今季初めての「メスへの餌渡し」が観察されて、順調にペアが形成されました。3月8日にそらが第1卵、11日に第2卵、13日に第3卵、15日に第4卵を産みました。

4月15日、孵化したのは2羽でしたが、すくすくと育ち5月29日、ヒナ2羽とも無事に巣立ちました。7月27日、幼鳥がベランダに来ました！そらときららⅡにとって初めての繁殖成功です。

## 2018年(平成30年):そら(♀)・きららⅡ(♂)

1月27日、手すり上での交尾を確認、順調に繁殖活動が始まりました。3月5日、第1卵を産卵、8日、10日に第2卵。第3卵を産卵し、抱卵を開始しました。4月12日、13日に、第1子、第2子が誕生しました。5月22日に1羽の幼鳥、5月26日にもう1羽の幼鳥が無事に巣立ちました。

## 2019年(平成31年):そら(♀)・きららⅡ(♂)

1月6日、ベランダできららⅡがそらに獲物をプレゼントする様子を確認。1月19日にはゴルフ練習場の支柱の上での交尾を確認。3月5日に第1卵、7日に第2卵、9日に第3卵、12日に第4卵を確認、抱卵を開始しました。

4月11日に第1子、4月12日に第2子と第3子の誕生を確認、14日に第4子が誕生しました。5月23日に2羽が巣立ち、25日に3羽目、26日に4羽目が巣立ちました。4羽目は高速道路本線に落ちて死亡しました。巣立ち後も幼鳥たちはセンタービル屋上、マンションの屋根の上、駅前のアルザタワー屋上、ゴルフ練習場ネットフェンス支柱、ヨドコウ工場の屋根の上など近隣のあらゆる場所で遊びながら、親から飛行訓練を受けていました。

7月28日以降、きららⅡが姿を見せなくなり行方不明となりました。おそらくどこかで事故死したものと思われます。それからちょうど4か月後の11月28日、新しいオスのハヤブサ(きららⅢと命名)が登場しそらとの新ペア形成が確認されました。

なお、これまでハヤブサの観察会の開催場所であったきららセンタービル11階にある阪神高速道路の展望室がカプセルホテルに転用されたことに伴い、2019年以降、きららタウン内の「いかりの広場」を中心とした屋外で観察会を行うことになりました。

### ■そら(♀)ときららⅢ(♂)による繁殖

## 2020年(令和2年):そら(♀)・きららⅢ(♂)

前年の11月28日に現れたオスのハヤブサ(きららⅢと呼ばれています。)とそらのペアの形成は順調に進んでおり、前年の12月中旬からは巣の中で挨拶行動が観察されるようになっていきます。



2019年 交尾を重ねるそら♀ときららⅡ♂



2019年 4卵が揃ったところを確認に来たきららⅡ。左はそら。



2019年に巣立った幼鳥(4羽のうち2羽) そら(上)に餌をねだる幼鳥



2020年を迎えて期待される新ペア 左:そら♀ 右:きららⅢ♂

# 観察から見えてきたハヤブサたちの生態

阪上幸男

2006年に巣内を常時観察できるカメラを設置しました。カメラから得られた膨大な情報から、ハヤブサの繁殖に関する生態が明らかになってきました。求愛行動から産卵、孵化育雛、巣立ちまでの様子を紹介します。

## ■ 巣の中での挨拶行動

カメラを設置して初めて観察できたのが、巣の中で頭を下げてオスとメスが鳴き交わす岩棚ディスプレイと呼ばれる行動です。オスとメスのペアが「自分たちは夫婦なんだ、この巣で卵を産んでヒナを育てよう」と相互の意志を確認し合うために行っているものだと思います。

これまでに4回のペア交代が行われましたが、いずれも「巣の中での挨拶」が観察されることから始まりました。岩棚ディスプレイは概ね1月から3月にかけて見られ、抱卵の交代時（ただしオスがメスに交代するときのみで、メスからオスへの交代時はメスに追い立てられるようにオスが巣から離れる）にも観察できました。

また、6月から7月頃、幼鳥たちが巣立ち、再びオスとメスのみになった時点でも観察されました。私には「今年も無事に子育てが完了したね。ご苦労様でした」とお互いを慰労しているように見えました。



2019年1月18日、巣の中での挨拶行動

## ■ 食べ物プレゼント（求愛給餌）

オスがメスに食べ物（獲物は鳥）をプレゼントする求愛給餌行動が、1月末から3月の産卵時期までよく観察されました。オスが巣に近いベランダに獲物の鳥を運んできます。メスに渡すのはほとんどが巣の前です。「この巣の中で卵を産んでくださいね」というオスの思いが感じられる行動です。

## ■ 交尾行動

毎年2月に入ると交尾が観察されます。2006年に観察を始めた頃はホテルやきららセンタービルの屋上などで交尾をするのが観察されていましたが、2009年にきらら（♂）とそら（♀）のペアになってからは巣のある階のベランダの手すりの上で行われることが多くなり、交尾の様子がカメラに記録されることが多くなりました。

2羽同時に巣に向かって飛んできて、メスが手すりに留

まり「ホエーホエー」と聞こえる鳴き声で巣に降りたオスを誘います。オスがタイミングを計り巣の中から飛び出して一旦空中を旋回してメスの背中に乗ります。交尾のときにはオスはメスを爪で傷つけないように指を丸めています。

## ■ 産卵、産み揃え

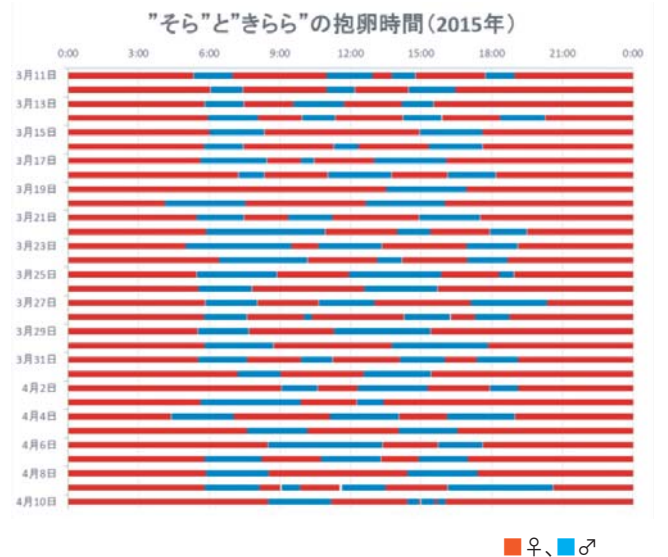
観察カメラの設置により正確な産卵日時が記録できるようになりました。初卵の産卵は早い記録で2月26日、遅い記録で3月11日（2009年のペアが入れ替わってからの記録：4月8日初卵は除く）で、多くは3月初旬に始まります。泉大津での4ペアの記録ではほとんどが4卵の産卵（3卵が2回、2卵が2回、4卵が13回）でした。

ニワトリの卵より一回り小さいクリーム色の地に赤褐色の薄い斑点の入った卵を2～3日（50時間から60時間）おきに産卵し、3卵目を産み終わると抱卵に入り、4卵目からは時間を空けずに本格的な抱卵を行うようになります。

## ■ 抱卵期間、抱卵交代

抱卵は雌雄交代で行いますが、夜間の抱卵は完全にメスが独占します。しかし、きららが午前4時前に抱卵交代に来たり、そらが午後9時前まで帰ってこなかったりしたこともありました。（下図、2015年の抱卵記録参照）

第1卵産卵日から孵化第1日目までの日数は37日が平均的な日数でした（9ページの「抱卵日数の列」及び右図を参照）。



## ■ ヒナの誕生（孵化）

4月になるとヒナが誕生します。4個の産卵には概ね1週間程度かかりますが、4個の卵の孵化は3、4日の間に完了します（8ページ「孵化日の列」を参照）。これは4個の卵を産み揃えてから本格的に抱卵を開始することによってヒナの孵化の時期をそろえるという意味があるといわれています。1番目に誕生したヒナと4番目に誕生したヒナとの差があまり大きくならないよう行動が遺伝子に組み込まれているようです。

## ■ ヒナの成長

綿羽につつまれたヒナの成鳥と巣立ちまで誕生してから日の浅いヒナたちは真っ白な綿羽に包ま

れています。ヒナが小さいうちは、メスがヒナを抱き続けます。

この頃は、メスが獲物をくちばしで小さくちぎってからヒナに与えます。ヒナたちが仲良く並んで食べ物をもらう様子はとてもかわいいものです。ハヤブサは子育てがうまく、親鳥にアクシデントがない限り、「誕生したら巣立ちまではちゃんと成長する」ということが続いています。ただし、2014年の例外（12ページ「悲しくも神聖な出来事」参照）はあります。

### ■ 巣皿からの脱出・ベランダ徘徊

ヒナたちは、誕生してから20数日過ぎると、足取りもしっかりしてきて巣皿を飛び出すものもできます。ヒナたちの体がお互いに大きくなって巣が狭く感じられることや、夕方になると直射日光が巣に入り込み暑くなるため日陰を求めて移動するものと思われれます。これまで真っ白だった綿羽が少しずつとれて黒褐色の羽軸が見えてきます。

誕生してから30日くらい経過するとヒナたちが広いベランダに繰り出してきて、地上からも観察できることがあります。まだまだ、綿羽がたっぷり残っているのにベランダを走ったり、翼を広げたりする姿は、楽しみでもあり心配でもあります。

### ■ 巣のある18階のベランダからの飛び出し

5月20日から月末にかけて、ヒナたちの綿羽もほとんど取れてバフ色に縦縞模様の入った立派な姿になり、ベランダでの動きが活発になります。（※第2カメラの設置（2017年9月）によりベランダの端から端まで確認可能となる。）

親たちもヒナたちから見えるところで飛翔を繰り返し「巣立ち」を促しているように見えます。

5月末から6月初めにかけて、ヒナたちがベランダから飛び出し巣立ちします。巣立ち直後はなかなか高いところへ上がって留まることが出来ず、近隣の工場の屋根、マンションの屋根、等の安全な場所なら良いのですが、高速道路上や、地上の地面に着地することがあります。

巣立ち後数日経過したヒナたちは、ホテルの屋上やセンタービルの屋上などに集結します。ここまで育てばひと安心。

そして、親鳥による訓練飛行が始まります。6月末から7月には、親からの訓練は終了し、ヒナたちはそれぞれ旅立ち、巣のあるホテル周辺から姿を消します。

巣立ったヒナたちは、どこに行くのか、また自分で獲物を捕らえるようになって無事に冬を越せるのか・・・若いハヤブサの姿を見るたびに、私たちが巣立ちまで見守った泉大津の子たちではどの思いがよぎります。

## 泉大津のハヤブサ 繁殖の歴史

観察年	メス(♀)	オス(♂)	第1卵	第2卵	第3卵	第4卵	孵化日	抱卵日数(注1)	卵数	ヒナ数	巣立日(注2)	コメント
2004年	なぎさ	きらら					??	-	2	2		1羽は高速道路に落下死亡。1羽は不明。
2005年	なぎさ	きらら						-	4	0		なぎさの事故で中断
2006年	いずみ	きらら	3.9	3.11	3.13	3.15	4.16(3),4.18(1)	38	4	4	5.25	1羽がビル衝突死亡
2007年	いずみ	きらら	3.10	3.12			4.17(2)	31	2	2	5.28	
2008年	いずみ	きらら	2.28	3.1	3.3	3.5	4.5(1),4.6(1),4.7(1),4.8(1)	37	4	4	5.16	
2009年	いずみ	きらら	2.26	2.28	3.3	3.5	4.5(1),4.7(1)	38	4	2		いずみ負傷。卵回収。人口孵化器で孵化2羽誕生
2009年の2	そら	きらら	4.8	4.10	4.13		5.13(1),5.14(1),5.16(1)	36	3	3	6.19	そら登場。1羽はビルに衝突落下で死亡、
2010年	そら	きらら	3.8	3.11	3.13	3.15	4.16(2),4.17(1)	39	4	3	5.28	
2011年	そら	きらら	3.6	3.8	3.11	3.13	4.13(2),4.14(1),4.15(1)	38	4	4	5.22	1羽が高速道路で事故死
2012年	そら	きらら	3.9	3.11	3.14	3.16	4.18(3),4.19(1)	40	4	4	5.25	
2013年	そら	きらら	3.5	3.8	3.10	3.12		-	4	0		100日経過しても孵化せず。卵を回収。
2014年	そら	きらら	3.11	3.13	3.15	3.18	4.17(1),4.18(2),4.24(1)	37	4	3	5.27	第4子孵化後3日目死亡。
2015年	そら	きらら	3.3	3.6	3.8	3.10	4.10(2),4.11(1),4.11(1)	38	4	4	5.20	巣立ち後事故死1羽
2016年	そら	きらら	3.1	3.4	3.6	3.9		-	4	0		きらら行方不明。卵回収。きららⅡが登場。
2017年	そら	きららⅡ	3.8	3.11	3.13	3.15	4.14(2)	37	4	2	5.29	
2018年	そら	きららⅡ	3.5	3.8	3.10		4.12(1),4.13(1)	38	3	2	5.21	
2019年	そら	きららⅡ	3.5	3.7	3.9	3.12	4.11(1),4.12(2),4.14(1)	37	4	4	5.23	1羽事故死。きららⅡ行方不明。きららⅢ登場
2020年	そら	きららⅢ										
合計									62	43		

注1) 抱卵日数は当年度の第1卵産卵日からの経過日数とした。平均 37日

注2) 巣立ちは当年度のヒナの内一番早くベランダから飛び出した日を巣立ち日としました。

# ハヤブサを愛する仲間たちのメッセージ

## 「優良物件」

森川成光

### 1. 日当たり最高！！

実は、ここ泉大津のホテルベランダはハヤブサにとって最高の立地かもしれない。

ホテル 18 階のベランダ、余程の横風台風でない限り大切な巣が水浸しになることはない。目の前にビルがなく、西日がきついが、湿気も少なく、雑菌の心配もない。特に、長いベランダは、巣立ち前の幼鳥が飛ぶ力を付ける為の運動場としても最高である。

### 2. 狩場として最高！！

海岸に近く見晴らし最高、ハヤブサの視力は 100m 先の新聞を読むことが出来る？と言われていた。その視力があれば、ここ泉大津には餌となる野鳥の逃げ場はない。また、近くを流れる大津川にはシギ・チドリ類が多数生息しており、格好の餌場である。

### 3. 子育てに最高！！

野生動物にとって、最大の目的は子育てと思われる。18 階ベランダにヘビや四つ足動物はいない。巣立ちについても、ベランダの前は 180 度オープンである。巣立ちの時最初はほとんど羽ばたき出来ずに、まるでグライダーのように滑空状態、工場やビルの屋根や屋上に不時着すれば、親は餌を運べるが、道路や地面に落ちると最悪である。

そこで、「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」メンバーの「出番」である。幼鳥が危険な状態になった時は保護して 18 階の巣へ戻す。今までも、何度も保護したことがある。

ただ、最大の弱点は目の前にある高速道路。そこに落ちるとどうしても助けることが出来ない。事実、今まで数羽が車の犠牲になっている・・・・合掌。

### 4. 協力的なホテルが最高！！

ホテルという客商売で野生動物などあまり歓迎されないと思うが、このホテルは巣に誰も近づけないようにしたり、当初子育ての頃巣が一番近い部屋は「ハヤブサルーム」としてリザーブしていたほどである。

ただ、ホテル側にもメリットがある。ここのハヤブサのことが新聞 4 紙に載ったり 5 局のテレビで放送されたり、NHK では 30 分の特番を組んだほどで、全国的にホテルの名前が有名になるという恩恵もあった。オーナーも喜び、ハヤブサのオブジェを泉大津市への寄付やホテルの建物ロゴにハヤブサを使用したり、非常に協力的である。

### 5. 強力な支援者が最高！！

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部の活動は 10 数年前より観察と見守り、子育ての応援、見守りのための 24 時間観察できるカメラ 2 台の設置、特に巣立ちの時の大変な保護活動、3 月から 6 月までの観察会の実施、ネット上での詳細な情報発信など色々と多岐にわたります。

## ハヤブサを観察できるしあわせ

藤森範子（東京都在住）

転勤族の夫とともに泉大津に来た私が初めて、ホテルに住むハヤブサのことを知ったのは新聞記事でした。野生のハヤブサがいる！私はさっそくサポートクラブの観察会に参加しました。そしてサポートクラブの HP のライブカメラやホテル周辺で彼らの子育てや普段の生活の一部を垣間見るという幸運を得たのです。

1 月になるとそらちゃん（メス）にご飯のプレゼントをするきらら君（オス）。交尾、そして 3 月に産卵。ほぼ 1 日おきに産卵するので、4 つ産むと最初に産む卵から最後に産む卵までほぼ 1 週間かかります。なのに孵化するのはほぼ同時、1、2 日くらいの差しかありません。雛が同じころに生まれ、同じように育つように抱卵しているときにうまく調整しているのだと思います。

4 月の上旬に生まれた雛は 5 月の中旬以降に巣立ちますが、親鳥はその時期が来るとしきりに雛の前を飛んで巣立ちを促します。また、その時期にはホテル周辺に飛んでくるミサゴや鶺鴒、カラスを追い払い、雛が安全に巣立てるように心くばりも怠りません。運が良ければ、そらちゃんの飛び蹴りが見事に決まるのを見ることができます。そして勇気を振り絞って？巣立つ雛たち（巣立てば雛ではなく、幼鳥ですね）。巣立ち間もない頃はイソヒヨドリからからかわれたりすることもあります。

巣立ち後の 2 日間くらい過ぎると、幼鳥はみるみる飛ぶのがうまくなります。そしてそれを待っていたかのように、親鳥による飛行訓練が始まります。飛ぶスピードも、最初は幼鳥に合わせている親鳥ですが、幼鳥の上達に伴い、突然スピードをあげての訓練もしています。意図せずにごく上空に上がってしまった幼鳥がいましたが、両親が素早く上昇して幼鳥の前に行き、降下の仕方（多分、羽の動かし方）を見せたようです。無事に降下して安全なところに戻ってきました。ある年には、駅のそばにあるタワーマンションで、急降下と上昇を繰り返す親鳥に必死でついていく 4 羽の幼鳥の訓練を数日にわたって観察することもできました。親鳥は幼鳥が独り立ちをしても大丈夫なようにと、巣立ち後も一生懸命世話します。

子供たちが独り立ちした後は、そらちゃんときららくん（きららⅡくん）がお互いの労をねぎらい、子育ての成功を祝うかのように巣の中でご挨拶をします。それ以外にも、別のハヤブサかハイタカとの小競り合いがあったり、寒い冬の朝にホテルのロゴの上に 2 羽で太陽を全身に浴びて凍とたたずんでいる姿を見たり、「ハヤブサのテリトリーで生活している」ことに幸せを感じて過ごせた 3 年間でした。泉大津を離れた今は毎年巣立ちの時期にハヤブサ一家に会いに行くのが何よりの楽しみとなっています。

## ハヤブサのいる風景

伊藤 章・美智子

ハヤブサの巣があるホテルから 300m の場所に総面積 47,000 m<sup>2</sup> で 7 棟の大規模マンション（15 階～20 階建）が建っている。その内の 1 棟の 16 階に我が家がある。我が家のベランダから見られるハヤブサの姿を報告する。

ベランダからホテルまで遮るものがなく、ハヤブサ夫妻の巣がある場所の反対側が良く見えるので毎日のように観察している。観察ポイントは、①巣階と反対側のホテルベランダとその上にあるホテル名の看板、②ホテル側面にあるロゴ上（通称：山ロゴ）、③屋上とその角、④ホテル周辺とゴルフ練習場支柱、⑤駅前高層マンション屋上、そして⑥我が家のマンション屋上角（ものすごく近い）の 6 カ所である。

観察ポイント①の 18 階はお気に入りですりこまっていたり、ベランダでご飯を食べていることもある。ベランダの山側端にあるスリットは、ご飯の隠し場所になっていて、抱卵期や子育て中の緊急時に利用しているようである。観察ポイント①や②から急降下して狩りに行ったり、ごく稀に我が家のベランダ前を通過して思わず息を飲む。目線の高さでハヤブサを観察できた時、我が家ならではのことで得意になる。

巣立ち後の飛行訓練期に、マンション中を縦横無尽に飛び回り、迫力あるその行動を間近で披露してくれる年もある。幼鳥は屋根に留まってご飯を食べ、羽を休め、とても可愛い姿を長時間見せてくれる。大きな声で親を呼び、聞きなれないそのけたたましい鳴き声がマンション中に響きわたる。一度は、我が家のベランダに向かって幼鳥がベランダへ直進した後、目の前で急上昇したことがある。大興奮の出来事だった。

繁殖期は、本当に賑やかで楽しい観察ができる。1 年中、当たり前のように我が家のベランダからハヤブサを観察しているが、よく考えてみると、おそらく稀有な状況であると思う。ハヤブサがいる風景は、我が家にとって「当たり前」になっていて、これからはずっと変わらずにいて欲しいと思う。その反面、本来の生息地である海岸や山地の断崖絶壁ではなく、市街地を住处として選択せざるをえないハヤブサの置かれた環境を憂いている複雑な思いもある。それでもずっとここにいるのは、住み心地が良いからなのだろう。



ベランダに直進してきた幼鳥 伊藤 章

## 巣立ち見守り隊募集中

席間悦子

一番最後の卵が孵化した日から数えて 4 5 日頃に幼鳥たちは巣立ちの日を迎えます。その日が近づくと運営委員に「巣立ち見守り隊当番表」が届きます。見守り期間は約 4 週間。そのうち重点見守り期間は 2 週間。「私が一人の日には巣立ちませんように！」と願いながら当番表に印をつけます。

重点見守り期間が近づくと、ベランダのあちらこちらでバタバタと羽ばたきの練習に余念がありません。きららとそらちゃんも夕方にいい風が吹くと、ベランダ際の幼鳥に巣立ちを促すように鳴きながら飛びます。

まだ巣立ちはまだ早いのにと思われる幼鳥も同じように、飛ばうかな？と身を乗り出し、やーめた！と引込めをくりかえすのを見るたびに、見守り当番の心臓は止まりそうになります。

平和な空気が流れていて油断をしていると、足を踏み外して落ちるように巣立つ幼鳥もいたり、ベランダの縁にしっかり爪を掛けジャンプをして飛び出す幼鳥もいます。

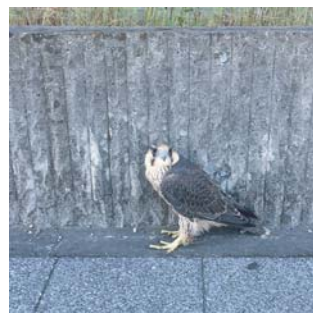
本来の岩棚で営巣している巣の近くには、ちょっとジャンプすれば跳び移れる木があり、掴まる練習ができるのですが、このホテルのベランダからは一度飛び出すと目の前には留られる物は何もありません。幼鳥が飛び出すと、きららかそらちゃんも飛び出して危険な方向に回り込んでエスコートします。

私たちが幼鳥を見失っても、きららかそらちゃんがじっと見つめている方向にいるはずで。

毎年 5 月中ごろに巣立ちます。巣立ちの見守りを助けて下さる方をお待ちしています。



今にも飛び出しそうなベランダのヒナ 席間悦子



左：ヨドコウ工場の屋根に降りた幼鳥、右：道路に降りた幼鳥

## 悲しくも神聖な出来事

須藤 薫

毎年かわいい雛の姿が楽しみな子育て見守りカメラですが、悲しい事も起こります。中でも今でも記憶にはっきり残っているのは、2014年に6日遅れで生まれた4羽めの雛、チビちゃんの事。孵化した時は皆で大喜びでしたが、兄弟たちとの大きさに既にかなり差がついてしまって、親から餌を貰おうと必死に背伸びして口を開けても餌に届きません。足もしっかりしておらず、すぐに転んでしまいます。親が給餌に来るたびに、今回はチビちゃんが貰えますように！と心の中で必死に応援しましたが、チビちゃんは一口も食べられず、弱っていきました。

孵化の翌々日の夜、かたまって寝る雛たちの中、チビちゃん1羽だけがみんなから離れていて動きがありません。心配に思っていると、巣の岩の上に居たメス親のそらちゃんが、スッと巣の中に入り、チビちゃんをくわえて外に持ち出しました。そしてまるで何事もなかったかのように岩上に戻ってきました。「やっぱり、チビちゃんはダメだったのだ…」と悲しい気持ちでいっぱいになりましたが、さらに驚いたのはその翌日でした。

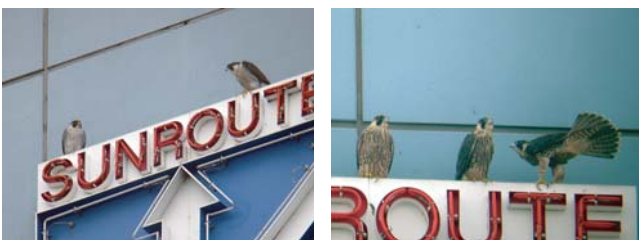
そらちゃんがチビちゃんの遺体を巣に再び持ち込んで、雛たちに給餌し始めたのです。ショッキングな出来事でしたが、丁寧に小さく千切って雛たちの口に運んでいる姿をしばらく見つめていると、何か神聖な儀式をみているような気持ちにもなりました。チビちゃんは死んでしまったけれど、こうやって兄弟たちの血肉になって、いのちは引き継がれていくのだな、と。

## お気に入りだったホテルロゴマーク

阪上幸男

ハヤブサ一家が選んだホテルのベランダは巣を設置するために最適の場所でしたが、ハヤブサたちの寛ぎの場所としてホテルのロゴマークがあります。以前は上辺が水平で下面がU字型をしたマーク(いわゆる「ホテルサンルート」のマーク)でした。2015年ホテルオーナーの意向でハヤブサをモチーフとした六角形のロゴマークになりました。

上面が水平のロゴマークの上では数々の名シーンを観察されました。きらら(♂)とそら(♀)は良く並んで留まっていたましたが、ハヤブサの場合ハトやメジロのように体を接して留まることはなく、いつも適度な距離を保っていました。その適度な距離を保つのがロゴマークの「幅」でした。まさに、寛ぎのツーショットでした。また、このロゴマークの裏には15cm位の水平な隠れ場所もありましたので、そこ餌の隠し場所としても使用していたようです。



ハヤブサたちのくつろぎの場、左：そらときらら、右：幼鳥たち

また、巣立った幼鳥たちも親の真似をしてこのロゴによく留まりました。2006年には3羽の幼鳥が同時に留まるというハヤブサファンには堪らない情景も観察することができました。

しかし、現在ではそのような情景を観察することは出来ません。120度の山形の頂点に1羽で留まることはありますが2羽で並ぶことは不可能です。新しく来たきららⅡはもっぱら「ホテルの文字ロゴ」のアルファベットの上辺をお気に入りしているようです。



新しいロゴマークに留まる、左も右もきららⅡ

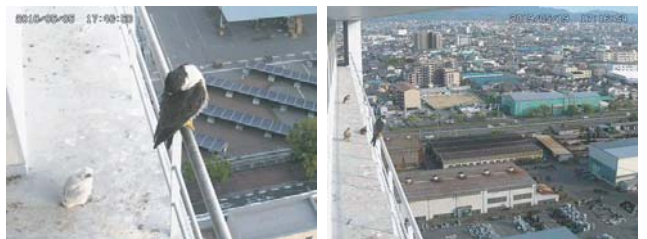
## カメラの増設

阪上幸男

これまで巣立ち見守りカメラは巣の傍の壁に取り付けてあり巣の中で育つヒナたちの様子は良く見ることが出来ましたが、巣皿を出てベランダを駆けまわったりベランダの縁から飛び出す様子などは見ることが出来ませんでした。2017年9月、ホテルのご理解と支援、勿論会員の皆様の支援を得てベランダ全体を見通せる第二のカメラを設置しました。



第2カメラに映し出されたベランダの幼鳥たち。



ベランダの幼鳥たちを見守るそら(♀親)

このカメラはベランダの天井部分に取り付けてありこれまで巣内カメラの視界に入らなかった場所を観察することができます。親たちがベランダの手すりに留まると第二のカメラが間近になり、これまで見ることができなかった表情などがよく見えたり、巣立ち前のヒナたちが長いベランダに散らばったり、あるいは固まって下界の様子を見まわしている情景が見れるようになりました。また、何より頼りになるのは録画プログラムで記録された動画を再生することで、いままで見ることのできなかったベランダからの巣立ちの瞬間が確認できることです。

## 『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』取材裏話 須藤 薫

NHKの「ダーウィンが来た！」で放送された「ハヤブサ一家 高層ホテルがマイホーム」の番組取材の裏話を泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページ「やませみねこさんの観察日記」の記録から振り返ってみます。

### ■【2011年9月4日】

「そらちゃんときららくんの今年の子育ての様子が、NHKの人気番組『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』で放送されます。」初めて、このお話が来たのは2010年の9月末でした。その時は、まだディレクターの北さん個人の発想でした。やっと年末に、めでたく番組制作のGOサインが出ましたということで、そらちゃん&きららくんをいつも応援してHPや観察日記を見て下さっている皆さまには、もっと早くお知らせしたかったのですが、公表することができませんでした。とても嬉しいお話だったので、大切に大切に事を進めて行きました。

お陰さまで2011年初めから約半年間の撮影も6月末に無事終了し、巣の近くに設置されたダーウィン・カメラも、8月末にディレクターさんが来阪されて巣の清掃と同時に取り外され、その際、番組の編集作業も概ね終了と伺いました。

### ■【2011年9月4日】 その2

さかのぼること2009年10月、タカの渡りを見に徳島・鳴門山へ行きました。そこで、渡りのカウントをされている日本野鳥の会・徳島支部の方に、きららタウンのハヤブサたちの話をしました。私の話を聞いて、「へえ、面白いね。ほら、あの、”ダーウィンが来た”から、そのうち取材が来たりして(笑)」と、思いもしない言葉をいただきました。

その時の会話は私の頭の中にずっと残っていました。ですからNHKさんから初めてお話を頂いた時、驚いたと同時に何か不思議な縁のようなものを感じて、きっとこの話は実現する〜！と思ったのでした。

### ■【2011年10月9日】

2011年の1月にいよいよ「ダーウィンが来た！」撮影用のカメラが巣の近くに取り付けられました。ハヤブサ



ダーウィンが来た！の撮影隊、左：センタービル屋上、右：PA3階

たちに見られてしまうと数日警戒されてしまいますので、今回このNHKのカメラの取り付け工事は1月19日の夜間に行うことにしました。気になっていたのは、翌日のハヤブサたちの反応でした。ところが、私たちの心配をよそに全くと言っていいほど気にしませんでした。やっぱり「ハヤブサたちに私たち人間の姿を見られない」ということは、とても重要な事なんですね。異物(カメラ)が巣の近くに増えたのに、それには関心なさそうで、本当にホッとしました。

### ■【2011年10月10日】

「ダーウィンが来た！」のタイトルを、足立ディレクターからおききました。

実は撮影開始前に急遽、北ディレクターが別の番組制作に関われる事になり、「足立ディレクター」が担当されることになりました。足立さんは鳥にとっても詳しい方で、NHKで鳥と言えば足立さんの名が挙がるそうです。(北ディレクターのお話。)さすがに、きららたちの姿を捉えるのがすごく早い、きららくんとそらちゃんの見分けをマスターされるのも早い、その足立さん指揮のもと、きららとそらちゃんの撮影が開始されたのでした。

### ■【2011年10月10日】 その2

皆さま、「ダーウィン NEWS」は、ご覧になりましたか。ついに、きららくんとそらちゃんが「ダーウィン・テレビ」に登場しましたね。

今回、撮影カメラマンさんは、おふたり。メインは笠井カメラマン、それから大変な巣立ち時期には塚越カメラマンも加わられました。撮影された映像、すごいですね。感動しました。特に狩りのシーンは、いつも現場にいても、ハヤブサが獲物を追っているシーンに出会えても、捕まえた瞬間は見れなかったりすることが多いのですが、ダーウィンカメラでは、マンション前での狩りの決定的瞬間がとらえられていましたね。ちなみに笠井カメラマンは、「ダーウィンが来た！」の前年の9月に放送されたイタリアのヒメチョウゲンボウのお話「世界遺産の街から羽ばたけ！」で撮影を担当された方です。ヒメチョウゲンボウの時と違って、今回はハヤブサならどれでもいいわけではなく、「きらら」「そら」が狩りをすると撮らないといけないのが大変だったとの事でしたが、今回の予告映像を見て、想像以上に素晴らしく、大感激です。

### ■【2011年11月20日】

遂に本日「ダーウィンが来た！」で放送されましたね。私たちサポート倶楽部のメンバーも見ることがないようなシーンがたくさんあり感激しました。みなさまはいかがでしたか？

## 2020年ハヤブサ観察会のご案内 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部主催

2019年11月28日に登場したきらら川くんとそらちゃんの子育てが無事に成功するように祈りながら、観察会を開催します。雨天中止(前日にホームページでお知らせします。)

開催日 ①3月8日(日)、②4月12日(日)、③5月3日(日)、④5月17日(日)、⑤6月7日(日)

会場 きららタウン内いかりの広場 開催時間 9時30分から11時30分まで

バス時刻 泉大津駅⇒ホテル玄関 8:00 8:30 9:00 ホテル玄関⇒泉大津駅 11:20 11:40 12:40

第2回 想定外の出会いに一喜一憂 ～九州撮影旅～

その後の与那国の旅では、ヒメカッコウのニヤミス事件や、夏の北海道でミラーレスに敗北宣言、恒例の離島遠征では、ズグロチャキンチョウ夏羽、ノドグロツグミ、コノドジロムシクイなどが見られたが、7ヶ月間新たな出会いはありませんでした。秋の渡りも終盤を迎え、地元で鳥の監視に嫌気をさしていた頃、マル秘情報が飛び込んできた。場所は伊豆沼周辺、仲間と7万羽のガンから1羽のアオガンを探すイベント?に参加。無事目的は達成できましたが、悉く飛び物の撮影は失敗。12月に入りナンキンオシを見に10年ぶりの沖縄に向かいましたが、すれ違いで目的果たせず空振り、バライロムクドリが見られたのは救いでした。



アオガン *Branta ruficollis* 【Red-breasted Goose】  
2019.11.2 伊豆沼

年末、友人から耳より情報を頂き、1週間予定を早め九州遠征へ、毎度のごとく18時間かけ下道走って大授掬に到着。有明海は干満の差が激しく、シギドリ類は満潮のタイミングで無いと遠くて識別不能。鳥を良い条件で観察できるのは3、4日ぐらいでそれを逃すと2週間後です。前日に送られてきたヨーロッパムナグロの写真を見ながら、60倍のスワロで探しますが見つかりません。500羽ほどのダイゼンの中の1羽ですが、見えている範囲を探すのですから、伊豆沼のアオガン探しと比べると無く楽勝と思っていたのに……。その後潮が引きだし、鳥も遠くなってタイムアウト。

仕方ないので近くの干潟を搜索することに、結果、以前アメリカグロシギを見に来た河口干潟にダイゼン100羽ほどの中いました。鳥との距離も遠く200m以上離れています。堤防も改修され背伸びをしてやっと観察できる高さで見づらい状況です。

ダイゼンの体型でずんぐりしていて、嘴は先に行くほど細く、サイズはダイゼンより一回り小さい。雨覆は数枚換羽しており、ムナグロ模様の羽根が見えます。頭頂の模様も縞模様がはっきりしており、胸も模様が違います。やっとライフアゲット！しかし、ダイゼンのように近くの泥状の干潟にはこず、遠い砂がデコボコした場所で近づくことなく日没となり証拠写真のみ。

翌日、満潮前に前日見た場所に行くもダイゼンの群れはいませんでした。その後大授掬へ、探し始めて早々怪しい個体発見。首を突っ込み寝ていますが、模様はムナグロです。しかしどう見ても昨日、見た個体より小さい。近くに九州の友人がいたので聞いてみると、怪しいのでずーと観察していたが、翼の裏は白くなかったと。ココではこの時期珍しいムナグロでした。その後友人が本物のヨーロッパムナグロを見つけ一同バンザイとなったのですが、潮が満ちてきて近づく前に飛び立たれてしまい終了。しかも3度あった翼の裏を撮影できるチャンスもまん悪く逃し、悔いの残る結果となりました。



ヨーロッパムナグロ *Pluvialis apricaria* 【Eurasian Golden-Plover】  
2019.12.29 大授掬

翌12月30日、潮も悪くなり、天気が崩れるので諫早に移動。予報通り夜間に雨が降り、朝の止み間にタカサゴモズを撮影、昼過ぎに雨もあがり付近を散策、珍しく中央干拓の水路沿いにナベコウがいましたが、広い区画の中央で遠くて写真になりません。途中堆肥を蒔いた田んぼにホシムクドリがいて、鳥が集まりそうな所なので待つことに、ツメナガセキレイやタヒバリ類を撮影していると、突然目の前に白いタヒバリが。側にいた友人に思わず「白い！」と叫んでしまいました。思いがけないミズタヒバリ発見です。以前はサメイロタヒバリと呼ばれタヒバリの亜種扱いとなっていたのですが、近年英名の Water Pipit の直訳で別種扱いとなっています。明らかに他のタヒバリに比べ色が薄く、胸の縦班も細くて少なく足の色も黒い。



ミズタヒバリ *Anthus spinoletta* 【Water Pipit】2019.12.29 諫早市

今シーズンはチュウヒ類も少なく他の鳥も愛想悪いので、翌日午後から有明フェリーで出水をめざし移動。大晦日は出水の駐車場で車中泊、久々に最後まで紅白を見て眠りにつく。初日の出は東干拓で迎えます。撮影ポイントでは暗い内から待機していると見られる車や、初日の出お目当ての車が増えてくる。日の出前にツルのねぐら立ちが始まり、鶴見亭前のねぐらからもツルやカモの群れが上空を飛び回ります。ツルの鳴き交わす声やカモの群れの風切り音がすばらしいのですが、観光客やカメラマンの中には車のエンジンをかけっぱなしする鈍感な人が多い。辛抱たまず、「ビデオ撮影するので。」と言ってエンジン切って貰うようお願いしました。

日の出撮影後はアネハヅル探しで有料展望台へ。近年ねぐらの廻りを通行止めにして青いシートで囲ってしまい、ねぐら周辺にいるツルは直接道路上から見る事ができません。いつも午前中はねぐらの餌場にいるのですが、この日に限って不在でした。クロヅルやカナダヅルは定位置で見られましたが、アネハヅルは夕方近くになってやっと見つかりました。翌日アネハヅルは餌場から昼過ぎに飛びだし西干拓へ。鳥を見つけ他のツルを飛ばさないよう慎重に接近し撮影していると、何処からか車が何台も集まってくる。中には観光客もいて車から出てツルを飛ばしてしまう。順光側から回り込んで撮影しているのに直行で突っ込んでくる。おかげで鳥のバックに車の列が写りまくります。2、3度同じ事を繰り返され嫌気をさして退散。田んぼで撮影時、車から出ないことが常識なのですが、徹底されていません。有名探鳥地では仕方ないことかと諦め、帰り支度となりました。

今回思いがけないラーファーgetに盛り上がりましたが、ヨーロッパムナグロの翼の裏が撮影できずリベンジを誓い、次の大潮に再挑戦です。

約1週間後、再度大授搦へ向かう。前日は見られなかったようで、夕方前回同様河口干潟の方で見つかったらしい。今回はより大きく撮影しようと古いペンタックスの6×7用の800mmを持ちだし頑張ったのですが見つかりません。がっかりしていると地元友人から極秘情報を入手。長崎で**ロクショウヒタキ**が出ていて昨日見てきたと言う。近年記録が増えてきていずれ見られるかと思っておりましたが、こんなすぐにチャンスが訪れるとは思っていませんでした。廻りの人に気づかれぬようこっそりと抜け出し、高速使って長崎へ急行。

現地には地元メンバーを中心に10数名が鳥待ちをしていました。公園の側の住宅地に面した畑が餌場となっていて、地元の車もよく通る狭い道路に囲まれているヤバイ場所で、地元の鳥屋さんが自宅から発見したそうです。地元の指示で三脚使用禁止、おとなしく待っていると鳥はやって来ました。綺麗な雄で警戒心も少ない。この感動を九州に来ている友人達に知らせたいが、現時点で情報は地元グループで留まっているようで話せません。大勢が集まると問題が多い場所なので仕方ないと割り切ります。極秘情報の扱いはいつも心を痛めます。友人には墓場まで持って行く情報があると常々笑っている人がいます。



ロクショウヒタキ *Eumyias thalassina* 【Verditer Flycatcher】  
2020.1.12

折角のチャンスなので翌日も滞在、早めに公園駐車場に着くと他府県ナンバーの車が多く集まっていました。何人かが日の出前の暗くて撮影できない時間帯なのにカメラ担いで行こうとするので制止しました。そこには要注意、情報拡散ブログ男がいたので、みんなに部外者代表として注意事項を一発ぶちかます！秋に地元奈良で苦労した経験からの発言は以下の通り。

- ・ 朝早くから鳥は動かない、近所の迷惑になるので8時過ぎるまで車で待機。その後は地元の指示に従うこと。
- ・ トイレは公園の横にあるのでそこを使用すること。
- ・ 近所迷惑なので大きな声でくだらない話はしない。
- ・ 車や人がよく通るので近づいてきたらすぐ退く。
- ・ 地元住民には挨拶、声かけをして愛想良くする。
- ・ 三脚は一応使用禁止になっている。
- ・ 人家にはカメラを向けない。農道には入らない。
- ・ 鳥情報は拡散しない
- ・ SNS、ブログ等には絶対のせない。
- ・ 行儀よくしないと締め出しをくらうので手本となるような行動をとること。

大きな声で注意したのでご近所に迷惑かけたかも。案の定情報は翌日には全国に拡散したが、住民の方々に対する初期対応が功を奏し、地元の鳥グループの監視もあり、多少の苦情はあったものの大事に至らず、鳥は1週間ほどでいなくなったと聞いています。

長崎を後にして再度ヨーロッパムナグロを2日間探したが見つからず、情報のあったクビワキンクロはお留守で、キバラガラ、サカツラガン、シジュウカラガン等撮影して2度目の九州撮影旅は終了。

次は2月20日のフェリーに乗り北海道へ。日本初？記録のハクトウワシは見られるのでしょうか？

---

小山慎司（こやましんじ）：本会会員  
国内での600種撮影を目指し、探鳥の旅を続ける



昔、大阪府でチョウゲンボウと言えば、冬に河川敷や農耕地などで見る鳥でした。それが今では、年中見られる上に、市街地でも珍しくありません。いつの間にこんなことに？ という訳で、今回はチョウゲンボウに注目してみます。テーマはチョウゲンボウの全国展開の歴史です。

### ●不遇時代？のチョウゲンボウ

かつてチョウゲンボウは、長野県から東北南部に、繁殖地が点在しているだけに過ぎませんでした（日本野鳥の会 1980）。その営巣場所は、崖面に自然にできた横穴、タカ類の古巣やヤマセミの古巣穴、木の株の間、カラスの古巣など（清棲 1978）、営巣環境も山間部や海岸などで、都市部ではありませんでした（池田ほか 1991）。

### ●チョウゲンボウの東京進出

首都圏でのチョウゲンボウの繁殖が始まった頃の情報をまとめた川内（1998）によると、首都圏で最初にチョウゲンボウが繁殖したのは、1966年に神奈川県多摩川河口。続いて、1970年に東京都大井埋立地。しかし、この2回は巣立ちビナが確認されただけで、巣が最初に見つかったのは1976年、大井埋立地の倉庫でした。

1980年代になると、神奈川県東部、東京都、埼玉県東部周辺でチョウゲンボウの繁殖例は増加し、1990年代になると、“数の多くない留鳥”と言われるほどに、普通に繁殖する鳥になっていきます。

その営巣場所は、橋、ビル、工場、体育館など、すべて人工建造物でした。川内（1998）に営巣場所が載っている36ヶ所の内、橋（跨線橋や高速道路の橋脚を含む）は、24ヶ所（68%）にも及びます（他は建物10ヶ所、鉄塔1ヶ所、管理棟1ヶ所）。今まで自然な穴や古巣にこだわって伸び悩んでいたのが、人工物利用に目覚めて、一気に首都圏で成功したと言っても過言ではないでしょう。

池田ほか（1991）は、都市近郊以外の崖地での営巣13例と、都市の人工建造物での営巣9例について、チョウゲンボウの営巣場所を比較しています。その結果、共通する営巣場所の傾向として、10m以上の見晴らしの良い、屋根のある横向きの空間で、周囲に開けた環境があるという点をあげています。なるほど、大きめの河川にかかる橋はピッタリです。



図：チョウゲンボウ 左が巣立ちビナ 右メス親  
（浅野宏幸 2019. 5. 17 太子町）

### ●チョウゲンボウ全国展開へ

東京進出を果たしたチョウゲンボウは、全国展開をはじめます。1997年～1998年に行われた日本の鳥類繁殖分布調査の結果を見ると、チョウゲンボウは関東地方以北に広く分布し、西は北陸にまで進出していることが分かります（日本野鳥の会 1999）。

その後、チョウゲンボウの繁殖分布は、西に広がっていきます。愛知県で、営巣が初めて確認されたのは2005年のことでした（日本野鳥の会愛知県支部ほか 2017）。

大阪府で初めてチョウゲンボウの繁殖が確認されたのは、2010年。鶴見緑地や淀川など、数ヶ所であいついで見つかりました。ただ、それ以前から繁殖期の確認例はけっこうありました。また、この時点で、兵庫県や京都府では既にチョウゲンボウが繁殖していました。

『大阪府鳥類目録 2001』（日本野鳥の会大阪支部 2002）では、繁殖期の記録はあるものの冬鳥とされていたのが、『大阪府鳥類目録 2016』（日本野鳥の会大阪支部 2002）では留鳥とされ、2015年時点で大阪府内に12つがいが生息すると記述されています。

### ●野外で実際に観察してみよう

現在、バードリサーチなどが中心になって、全国鳥類繁殖分布調査（<https://www.bird-atlas.jp/gwc/>）が進められています。その途中経過によると、チョウゲンボウの繁殖分布の西端は、近畿地方となっています。チョウゲンボウの全国制覇への道は、10年ほど足踏みしているようです。愛知県から大阪府に到達するまでに5年、しかし首都圏から愛知県に到達するまでに15年がかかったことを考えると、まだまだこれから広がるようにも思います。

人工建造物で営巣するようになって、チョウゲンボウが市街地周辺で増えたとするなら、その展開はスズメやツバメ、あるいはムクドリもこんな感じだったのかも、と思わせます。数十年後には、北海道から九州までの市街地周辺に、チョウゲンボウがごく普通に暮らすようになるのでしょうか。そんなチョウゲンボウには今後も目が離せません。とりあえず近所で探してみましよう。

### ●引用文献

日本野鳥の会愛知県支部・愛知県環境部自然環境課・愛知県環境調査センター（2017）愛知県鳥類生息調査（1967-2016）50年の記録。愛知県環境部自然環境課，名古屋。

池田昌枝・本村 健・石井良明・内藤典子・藤田 剛（1991）南関東都市部におけるチョウゲンボウの繁殖状況と環境特性。Strix 10：149-159。

川内 博（1998）首都圏におけるチョウゲンボウの繁殖分布の変遷について その1。Urban Birds 15：43-51。

清棲幸保（1978）増補改訂版 日本鳥類大図鑑 II。講談社、東京。  
（財）日本野鳥の会（1980）第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書（鳥類）全国版 鳥類繁殖地図調査 1978。（財）日本野鳥の会，東京。

（財）日本野鳥の会（1999）生物多様性調査 鳥類調査 中間報告書。環境庁自然保護局生物多様性センター，富士吉田。  
日本野鳥の会大阪支部（2002）大阪府鳥類目録 2001。日本野鳥の会大阪支部，大阪。

和田 岳（2012）大阪の街のタカ。都市鳥ニュース 12：4-6。

和田 岳（わだ たけし）：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>



## 2019/12/08 第2回関西トリの市

第2回関西トリの市を無事南港野鳥園で開催することができました。駅から少し距離があったからか来場者数は昨年より少ない137名でした。それでも、最近野鳥に興味を持ったという方が何人か来てくださったり、大阪支部にも関心を持っていただいたりと嬉しくなりました。



今回は新たな販売グッズとして缶バッジを作りました。皆様おなじみのむくどり通信表紙にあるモズのマークの缶バッジや、初心者にも馴染みのあるような比較的よく見る鳥の缶バッジです。今後、別のイベントなどでも活用する予定です。

前回の関西トリの市では鳥類目録を3冊持っていき全て完売してしまったので今回は5冊持っていきました。昨年より重くて大変でしたが今回も完売しました。！苦労して持って行った甲斐がありました。

ご参加していただいた作家様、ボランティア団体の皆様、そしてご来場して下さった皆様本当にありがとうございました！

## 2020/01/15 都市公園の野鳥

都市公園にいる野鳥は山など人の少ない場所よりも近くで観察できるような気がします。人通りが多く慣れてしまうからなのでしょう。このエナガは1m近くまで来てくれましたが、逆に近すぎて撮影できないので私の方がバックしてしまいました。間近で肉眼で見るエナガは羽毛がフワフワなのがわかってとても可愛らしかったです。



## 2020/01/21 淀川

久しぶりに淀川へ。私が淀川へ行くと必ずと言っていいほどハッカチョウに出会います。ムクドリと同じくらいの頻度かもしれません。しかも今回は50~60羽近くいました。キュルキュルと草むらの中からたくさん声が聞こえてきたり木の上にとまっていたり、ドバトとムクドリと一緒に地面をつついていました。初めてハッカチョウを見たときはとてもテンションが上がったのですが、国外から愛玩用に持ち込まれ、かご抜けした個体が繁殖した可能性が高く、しかも、毎回毎回個体数がどんどん増えてきているので少し残念な気持ちです。



私が見るカヌムリカイツブリはいつも冬の時期なので白い個体を見慣れていたのですが、この日見たカヌムリカイツブリは真冬なのに顔に



赤褐色と黒色の飾り羽が薄く出ていて夏羽に近くなっていました。今年は暖冬だからなのかなと思っていましたが調べてみると、早いものでは年明け早々に変わり始める個体もいるようです。

## 2020/01/28 大泉緑地

ヒドリガモの群れの中に目の周囲が緑色のアメリカヒドリが1羽混ざっていました。雨覆が褐色の模様なので1年目の若い雄のようです。



私の最近のバードウォッチングの癖は、小鳥が警戒音を出して群れで飛び去っていったり、カラスが威嚇して集まっていたら周りを見渡すことです。この2つの状況の直後に高確率で猛禽類が現れる気がします。この日もオオタカとタカ sp を見つけました。



# 例★会★報★告

2019.12.1 ~ 2020.1.16

## ◎U50 山の辺の道 <12/1>

駅から山辺の道までにモズ・イソヒヨドリ・カワセミが見られました。古墳の池ではたくさんのカモ類、枝陰にオシドリがいました。

田畑が広がるなかを歩くと、上空を50羽くらいのツグミの群れが通過。山沿いの田んぼにはカシラダカの群れにアオジやホオジロが混ざっていました。

休憩中のノスリや、上空を飛ぶハイタカ、カラス群の下にはオオタカも飛んでいました。

桧原神社ではハヤブサ、カラの混群、キクイタダキ2羽に会えました。

## ◎百舌鳥古墳群 <12/7>

イタスケ古墳では、コガモ・カワセミが見られた。また、タヌキが3頭出てきた。

履中天皇陵古墳の堀では今年もミコアイサ・オシドリ・カンムリカイツブリがいた。

大仙公園から大山陵ではミサゴ・ハイタカ・オオタカがいた。以上、とても参加者に満足して頂いた。

## ◎植物観察会 旧吹田村歴史散策 <12/10>

今日は吹田市の中心部である旧吹田村10箇所余りを巡って、神社仏閣や民家にある巨樹大木を観察した。鳥はほとんどいなかったが、途中の安威川・神崎川合流点、江戸時代の旧跡「吹田の渡し」で、ユリカモメ・ヒドリガモ・キンクロハジロなどを見ることができた。

終了後、アサヒビール吹田工場を見学、試飲会に参加し、締めくくった。

## ～パーディ箕面公園に参加して～ <12/15>

わたしはカワセミとカワガラスがいんしょうにのこりました。カワセミは国語の教科書にのっていて、一度見てみたいと思っていた、見ることができたのでうれしかったです。

カワガラスはみのお公園へ行ってはじめてしました。じっさいに見てかわいいと思ったのですきになりました。

みのお公園にいて、いろいろな鳥をみれたので、鳥がすきになりました。今日はありがとうございました。

荒木 美沙希さん(小3)

## ◎ご長寿探鳥会 大阪城公園 <12/15>

当初ホームページだけの案内だけだったためか2名しか申し込みがなく、毎日新聞に掲載したところ、最終的に32名の参加となった。今年は鳥が少なく、市民広場ではいつもいるムクドリ・キジバト、そして冬鳥のシロハラ・ツグミも見当たらず、お堀を中心に回ったがカモも数が少なかった。飛騨の森で鳥合せ中に前方の樹木にアカハラが飛来し、近くにツグミもいて、皆さんに喜んで貰えた。

## ◎平日 山の辺の道 <12/18>

小雨で気温が高かった為もやっていたが、昼食後、気温が下がってきて見晴らしがよくなった。

崇神天皇陵ではオシドリが5～6年振りに観察できた。猛禽類もオオタカ以下5種出現、桧原神社前の手前ではミヤマホオジロも観察でき、雨の割には収穫多い一日でした。

## ～馬見丘陵探鳥会に参加して～ <1/4>

今日は、大阪支部の探鳥会に初めて参加しました。少し歩くと、イカルとシメが沢山木の上に集まっていました。「パチパチ」と木の実を食べる音を聞いて、美味しそうに食べているな、と思いました。

乙女山古墳の裏道で、ニシオジロビタキがいました。しばらく観察していると、なんと参加者達の前まで来てくれました。滅多にない経験だったので、とても良かったです。

池では、カワセミの「ツィー」という声が聞こえました。少し進むと近くで見られました。下を向いて魚を狙っていたようですが、魚を捕るところは見られなくて残念でした。

今回は、たくさんの種類を見られて良かったです。ていねいに教えていただき、ありがとうございました。坂口 璃桜(りお)さん(小4)



坂口 璃桜さん 画

## ◎U50 くらんど園地 <1/5>

今回は、U50の探鳥会初参加や、探鳥会自体への参加が初めての方等、新しい顔ぶれの参加者が多かった。

歩き初めてすぐに、電柱に止まるノスリをゆっくり観察。幸先のよい出だしかと思いきや、全体的には鳥影は薄かった。そんな中でも、一部の方がルリビタキを確認。飛び出したシロハラをツミが追いかける姿を見たり、くらんど池の傍では、カワセミやシメをゆっくり確認できたり、キクイタダキやヒガラの姿も見えて、終わってみれば32種。参加者のみなさんと、のんびり和気藹々とした新年の探鳥会を開催できた。



観察風景

■2019年-2020年 一般探鳥会出現鳥リスト<12月~1月>

●…多い ○…普通 ▲…少ない △…稀 ×…ごく稀

番号	種名	月日	12月						1月				出現回数
			1	7	10	15	18	4	5	13	16		
			U	は	植物	15	18	4	5	13	16		
		50	山	は	植物	15	18	4	5	13	16		
			の	じ	物	15	18	4	5	13	16		
			辺	め	観	15	18	4	5	13	16		
			の	て	察	15	18	4	5	13	16		
			道	の	会	15	18	4	5	13	16		
				鳥	旧	15	18	4	5	13	16		
				見	吹	15	18	4	5	13	16		
				たい	田	15	18	4	5	13	16		
				(	村	15	18	4	5	13	16		
				隊	歴	15	18	4	5	13	16		
				！	史	15	18	4	5	13	16		
				服	史	15	18	4	5	13	16		
				部	散	15	18	4	5	13	16		
				緑	策	15	18	4	5	13	16		
				地		15	18	4	5	13	16		
24	▲オンドリ	○		○			○			○		4	
26	○オカヨシガモ		○			○				○		3	
27	▲ヨシガモ		○					○	○			3	
28	●ヒドリガモ		○	○	○		○			○	○	6	
30	●マガモ	○	○	○			○	○	○	○	○	7	
32	●カルガモ	○	○	○		○	○	○	○	○		8	
34	●ハシビロガモ		○	○		○	○	○				5	
35	●オナガガモ		○									1	
38	●コガモ	○		○		○	○	○	○	○	○	7	
42	●ホシハジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	
46	●キンクロハジロ	○	○		○	○	○	○				7	
58	▲ミコアイサ		○	○						○		3	
62	●カイツブリ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	7	
64	▲カンムリカイツブリ			○						○		2	
74	●キジバト	○	○	○		○	○	○	○	○	○	10	
78	▲アオバト										○	1	
127	●カワウ	○	○	○			○	○	○			6	
139	○ゴイサギ		○									1	
144	●アオサギ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	7	
146	○ダイサギ						○			○		2	
148	○コサギ		○									1	
174	●パン	○	○				○	○				4	
175	○オオパン	○	○	○	○		○	○	○	○	○	9	
193	▲ヒメアマツバメ				○							1	
195	●ケリ	○										1	
286	●ユリカモメ				○	○				○		3	
339	○ミサゴ			○						○		2	
342	○トビ	○				○						2	
354	▲ツミ						○	○				2	
355	▲ハイタカ	○	○	○	○	○					○	5	
356	▲オオタカ	○	○	○		○	○			○		6	
358	▲ノスリ	○			○	○	○	○				5	
383	○カワセミ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	8	
390	●コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	
393	▲アカゲラ							○				1	
397	○アオゲラ										○	1	
401	▲チョウゲンボウ					○	○					2	
407	▲ハヤブサ	○										1	
412	▲サンショウクイ				○							1	
420	●モズ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	8	
435	●ハシボソガラス	○	○		○	○	○	○	○	○	○	9	
436	●ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	
438	▲クイタダキ	○	○		○	○	○	○				5	
442	●ヤマガラ	○	○		○	○	○	○	○		○	7	
443	▲ヒガラ				○		○					2	

番号	種名	月日	12月						1月				出現回数		
			1	7	10	15	15	18	4	5	13	16			
			U	は	植物	15	15	18	4	5	13	16			
		50	山	は	植物 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
			の	じ	物 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
			辺	め	観 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
			の	て	察 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
			道	の	会 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				鳥	旧 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				見	吹 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				たい	田 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				(	村 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				隊	歴 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				！	史 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				服	史 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				部	散 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				緑	策 <td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
				地	<td>15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td></td>	15 <td>15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td></td>	15 <td>18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td></td>	18 <td>4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td></td>	4 <td>5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td></td>	5 <td>13 <td>16</td> <td></td> </td>	13 <td>16</td> <td></td>	16			
445	●シジュウカラ	○	○	○		○	○		○	○	○	○	10		
463	●ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12		
464	●ウグイス	○	○	○		○	○	○	○		○	○	9		
466	●エナガ	○	○	○		○	○	○	○			○	8		
485	●メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11		
504	▲ミノサザイ		○										1		
506	●ムクドリ	○		○	○		○	○	○	○	○		8		
512	▲カワガラス					○							1		
521	●シロハラ			○					○	○	○	○	6		
522	▲アカハラ						○						1		
525	●ツグミ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	11		
536	○ルリビタキ					○				○		○	3		
540	○ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11		
549	○イソヒヨドリ	○		○				○		○			4		
—	△ニシオジロビタキ								○				1		
569	●スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12		
573	●キセキレイ	○	○	○		○	○	○					6		
574	●ハクセキレイ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	11		
575	●セグロセキレイ	○	○						○	○			4		
580	○ピンズイ							○	○				2		
586	○アトリ											○	1		
587	●カワラヒワ	○	○	○	○			○	○	○	○	○	9		
588	○マヒワ											○	1		
592	○ベニマシコ	○											1		
599	▲ウソ											○	1		
600	○シメ		○	○		○			○	○	○	○	8		
602	○イカル		○					○	○			○	4		
610	●ホオジロ	○				○		○				○	4		
617	○カシラダカ	○						○	○				3		
618	▲ミヤマホオジロ							○				○	2		
624	●アオジ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	9		
625	▲クロジ					○			○				2		
—	●コジュケイ								○				1		
—	●ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		
—	— マガモ・カルガモ交雑種						○						1		
種数合計			44	44	38	15	30	17	37	47	32	27	34	29	—
参加者数			15	59	57	30	37	36	8	67	10	31	56	35	441

## ～はじめての鳥見たい(隊)！大阪城公園に参加して～ <1/5>

大阪在住となって4年、昨年初夏以来2回目の「はじめての鳥見たい(隊)！大阪城公園」に参加させていただきました。

途中、天気予報を裏切る“通り雨”に見舞われましたが、約2時間(歩行数:6,608歩)楽しませていただきました。例年に比べて今年は、「種類はさるものの個体数が少ない」とおっしゃる中、ドバトを除いて24種類の野鳥を見ることができ、大満足いたしました。

思い起こせば25年前、職場の仲間に連れていかれたのが「12月25日の三島池」でした。いわゆる、初めてのバードウォッチングでした。積雪10数◆のなか、オシドリ数十羽が羽を休める光景が雪の白色にオレンジが素晴らしく映え、言葉が出なかったことを覚えています。

それ以来、湖北や白旗池(交野市)を中心に何度か、「白鳥」や「カモ」類を探鳥したことはありました。知識が豊富な方々について回るのが一番有意義です。また、機会があれば参加させていただきたいと思います。

本日はお世話になり、ありがとうございました。  
追伸 何回みてもジョウビタキ(雄)は美しいですね・・・ 月本 裕之さん

## パーティ 百舌鳥古墳群に参加して～ <1/13>

もずこふんぐんにはいっぱいとりがいました。とくにカワウがいっぱいいました。

タヌキが見られてよかったです。

ミコアイサをちかくで見えました。ミコアイサはくると白でした。

ほかにはアオサギは3わいました。オオバンはくちばしが白かったです。

いっぱいとりが見れてよかったです。

えのもと かずま くん(小1)

百舌鳥古墳群には、初めていきました。

さすが世界遺産になるだけあり、百舌鳥地区だけでも44基も古墳があることに驚きました。

いたすけ古墳では、コガモやカワウ、かわいいタヌキが見れ、履中天皇陵古墳の展望台からはミコアイサやオシドリなどを見ることができ大満足でした。

いつも皆さんに観察を手伝ってもらったり、鳥のことを教えてもらったり、親切にしてください楽しく参加させてもらっています。これからも親子でたくさん鳥を見ていきたいと思っています。

榎本 芳枝 さん

## ○平日 神戸市立森林植物園 <1/16>

正門から出発して桜園に入るとホオジロ・ジョウビタキが、青葉トンネルを抜けた道では、ルリビタキを見ることができました。

食事をした広場では、シロハラが長い間木にとまっていたため、全員がじっくりと観察することができました。

午後からは、アカゲラ・シメ・ウソなどが見られましたが、残念ながらキクイタダキは見ることができませんでした。今年も種類・鳥数が少ないように思えました。

## 室内例会 「この羽根の落とし主はだれですか」

2020.01.18

「羽根鑑定団」による講演と羽根鑑定会が1月18日、NEXTホールにて開催されました。

講師は、室谷勝美氏(羽根の名称と特徴)、寺川裕子氏(羽根の魅力・寺川コレクションの紹介)、久下直哉氏(鑑定方法・実践)。



写真 左から室谷、寺川、久下各講師

参加者は予想を大きく上回る42人。これだけ多くの方が鳥の羽根に興味をお持ちだとは驚きでした。

3人の講演の後、羽根鑑定。まあ、半分くらいは残るかなという予想に反し、殆どの方が残り、会場に展示された羽根標本に見入ったり、講師の説明を聞いたり、講師と一緒に秘蔵の羽根を鑑定したりと、羽根おたくの囁りがきゅんきゅん、きゅんきゅんと会場に響き続けました。



参加者の中には、バードウォッチングで見知った顔も。聞けば、道を歩いていて羽根を見つけるたびに拾って保管している、とのこと(知りませんでした)。足元を見るバードウォッチングもありですね!



定刻を大きく過ぎ、ようやく閉会。その後も懇親会場では、興奮おさまらぬ参加者が講師を離さず鑑定会の延長戦。

最後に講師と一緒に記念撮影、と思いきや、その後も鑑定会は続き、大阪支部の夜は更けていきました。

(文責 塚田順一)



# そんぐぼすと

## ■ヤイロチョウとの出会い

私は、昨年の海外はほとんど東南アジア探鳥でした。そこでヤイロチョウが6種、撮影できました。写真はタイ南部で撮影したマラヤシマヤイロチョウです（以前はキマユシマヤイロチョウとされていました）。ラッキーなことに♀と一緒に写すことができました。



今年はどうな鳥との出会いが待っているのでしょうか... 本年もよろしくお祈りします。2020. 1. 1 (天野ひろろ)

## ■「かもめコーヒー」岡林です

急激な体力の衰えと、あらゆる動作に違和感を感じ始めたのが、約6年前。いろんな病院を受診し、脳神経細胞の難病だと分かりました。父から引き継いだ電気工事業も続けて行くことが難しくなり、コーヒー豆の販売「かもめコーヒー」を始めました。この春で、4年になります。少しずつですが、お得意様も増えてきました。しかし、まだ副業の域を出ず、ここらでもう一步先へ進むために、店を広げてカフェスペースも作りたくと考えています。

当店の場所は、大和川から国道26号線を北へ約3km。気軽に寄っていただくにはちょっと遠いですが、カモメの観察の後にでも寄っていただけたら嬉しいです。好きな鳥を店の名前にしてしまう私ですから、「らしさ」を出したカフェに出来たらいいと思っています。

10人程度なら会合にも使っていただけるスペースも作る予定です。

店が完成しましたら、是非カモメ談義でもしましょう！店がきれいになったら、広告を出させていただきます。よろしくお祈りいたします。

(岡林 猛)

Twitter もご覧ください！

<https://twitter.com/kamomekohama>



## むくどり通信についていただいた感想等をご紹介します

■お年玉クイズ、今年もムチャクチャむつかしかったネ。クロスワードは何とか解けたけど、そこから得た18文字の組み合わせが超むつかしい。5文字はヒントなので13文字の組み合わせ。通信を隅から隅まで読んで、ヒントがないか探しましたが（過去に例あり）、それもみつからず。あとはじっとみつめて小半日。やっと解けました。いい頭の体操になりました。感謝。「鳥ガールのぐぜり」を愛読しています。コンパクトにまとめておもしろい発見があり楽しい。菊水山のエビフライ、ちっちゃいネ。淀川探鳥マップ、見たことのない鳥ばかり。そのうち出かけてみます。(YT)

■淀川の自然と野鳥の特集、じっくり読ませていただきました。淀川で初めて見ることができた鳥も多く、またあまり鳥に出会うことができない時も植物や昆虫の観察ができ、気軽に行ける場所なので、今後も季節ごとの情報を集めていきたいと思っています。(YF)

■大阪に特化した情報誌は他になく BIRDER 等雑誌や書籍は関東（東日本）中心の情報の為、むくどり通信が送られてくるのをいつも楽しみにしています。(YY)

■むくどり通信を楽しく読んでいますが、虫も鳥も減っていくのが不安です。見られなくなった鳥のニュースも知りたいです。(YK)

■「例会報告」が大好きです。とても具体的で初心者でもわかるコーナーで、何回も読み返すほどです。探鳥会への意見です。探鳥会はトイレの有無がとても気になります。(HS)

■昨年は計19回探鳥会に参加できました。今年目標は全ての定例探鳥会に参加したいと。毎回、初めての鳥に出会えて、ワクワクしています。(AM)

■探鳥会を完全禁煙にさせていただきたいです。(AK)

むくどり通信への感想やご意見ありがとうございました。

引き続き、皆様の期待にこたえられるよう楽しい誌面づくりに努めたいと思います。

校正作業や記事取材などをお手伝いいただける編集スタッフも大募集中です!! まずは事務局へご連絡ください。(編集担当一同)

## 2020年 お年玉クイズの答え

オ オ サ カ ノ ト リ ノ タ メ に  
ム ク ド リ ツ ウ シ ン

シ	ロ	エ	リ	オ	オ	ハ	ム
ロ	ビ	ン	ソ	ン	ク	ル	ー
キ	ー		ウ	ド	ノ		ド
タ	カ	ノ		ト	ホ	ホ	
コ	ツ		カ	リ	ソ	メ	
ウ	ド	ノ			ミ	チ	オ
エ	ウ	イ	ア		チ	ギ	シ
ン		ズ	サ	ン		ル	リ

正解者55名から抽選(カレンダー2名、かもめコーヒー5名)を行いました。

また応募者全員(57名)に特製モズマーク入り缶バッジをプレゼントしました。

### Prj.大阪の野鳥 ～調査地点と結果のサンプル

それではここで、現時点における「大阪の野鳥」プロジェクトの進捗について、ご説明します。

調査対象となる全 41 地点は、1993 年の大阪の野鳥 vol.6 で取り上げられた調査地点を踏襲するものですが、その設定根拠は 1976 年の vol.2 までさかのぼります。vol.2 における地点設定は、大阪府下を 10km 四方のメッシュで 25 分割し、各メッシュに 1～3 地点を設定した 36 地点というものでした。大ざっぱに言えば「まんべんなく」という感覚かと思われ、10km 四方のメッシュの配置も、vol.2 には図示されていません。下に引用した vol.6 の地点図では、10km 四方の代わりに地理院地図を 4 等分したメッシュが張られていますが、こちらのほうは地点設定とリンクするものではないようです。

これらのうち、これまでの 2 年で調査が実施できたルートは 12 地点。調査員の居住地の加減で、北摂方面から埋まっていますが、このペースだとコンプリートには 7 年のはかりそう（汗）。だとしても、これまでの 25 年間のブランクよりは短いわけですから、やらないよりは幾分かマシなはず。そんな気の長い構えなので、最終的な結果が出るのは、きっとずいぶん先になるでしょう。ここでは、すでに調査が済んだ地点での結果から、まずはご紹介してみます。

今回掲載したグラフと表（右）は、No. 24 泉北地点の繁殖期の調査結果です。泉北地点は堺市茶山台から大蓮公園を経て、泉北高校に至る、公園緑地の環境を主としたコースです。

繁殖期の最優占種は 3 期を通じてスズメとなりました。特に 1976 年には個体数がとびぬけているため、グラフでは右側軸で示していますが、谷底になっている 1993 年にも、他のどの種よりも多いことに変わりがありません。残念ながら、この 15 年間にどのような経緯を経てこうなったのか、詳細はわかりません。それでも、例えば他の地点の結果と並べてみたり、あるいは逆に 1993 年に個体数がピークとなるコシアカツバメやムクドリとの関係性など、様々な切り口から検証すれば、見えてくることもあるかもです。（N.K.）

表 1 No. 24 泉北地点における繁殖期の調査結果 (1)

- ・ 3 回とも出現した種を上段にまとめ、2 回または 1 回しか出現しなかったもの出現回の順に配列した。各カテゴリーごとに、2018 年の個体数が多かった順に表示した。
- ・ 水色の網掛けは減少傾向、橙色は増加傾向とみられる状況。
- ・ 過去の調査では、ドバトは放飼とみなされ計数されていない。

出現時期	繁殖期	1期(1976)	2期(1993)	3期(2018)
全期共通種	スズメ	68	15	25
	カワラヒワ	3	11	14
	キジバト	11	6	3
	ツバメ	2	4	3
	コシアカツバメ	8	12	3
	ヒヨドリ	7	7	3
	ハシボンガラス	4	3	2
1期のみ	モズ	1	1	1
	ホオジロ	13	0	0
1期+2期	ヒバリ	3	0	0
	オオヨシキリ	1	1	0
2期+3期	コジュケイ	2	1	0
	エナガ	0	7	18
	シジュウカラ	0	2	14
	メジロ	0	3	15
	ウグイス	0	1	2
3期のみ	ムクドリ	0	12	1
	コゲラ	0	1	5
	ハシボンガラス	0	0	20
	カワウ	0	0	3
	キビタキ	0	0	2
	ハクセキレイ	0	0	2
	イソヒヨドリ	0	0	1
	ドバト	0	0	11

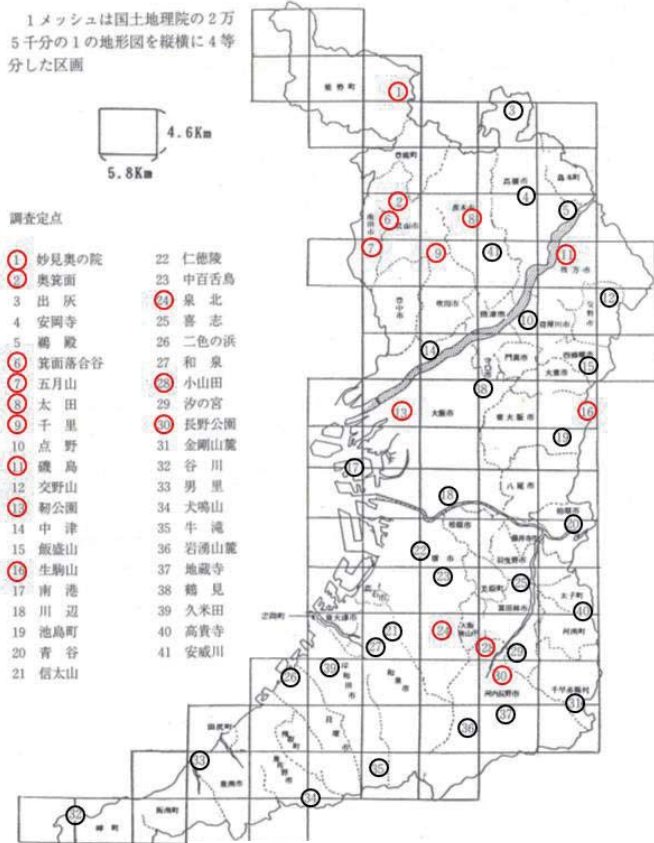


図 1 調査地点の配置と現在の進捗  
大阪の野鳥 vol.6 の図に丸印を付加。赤丸が今回実施済み地点を示す。

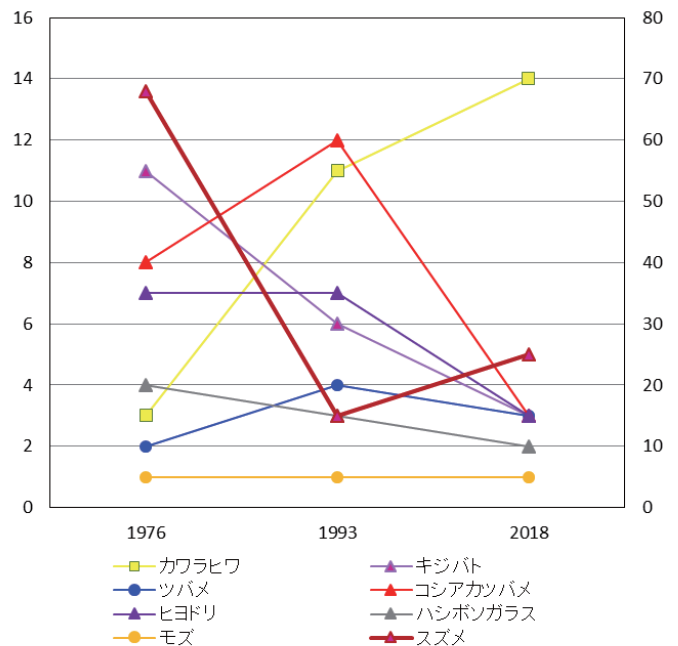


図 2 No. 24 泉北地点における繁殖期の調査結果 (2)  
・ 3 回とも出現した種について、個体数の推移をグラフで示した。  
・ 数の多かったスズメは太線で示し、右側の軸目盛に対応。

# 鳥信 こんな鳥 観たよ!!

■ 2019年11月～2020年2月 (日本鳥類目録改訂第7版分類順)

◎キジ 1/4 和泉市北田中町 ♂1羽

隣の家の庭にいるのを発見、びっくり。  
(納家 仁) **右写真**



◎ヨシガモ 2/10 枚方市淀川左岸 実験池♂4羽、♀3羽  
通称実験池に昨年末から滞在 (松下孝雄) **下写真**



◎ウミアイサ 1/24,25 羽曳野市下青井池 1羽  
内陸の溜池では珍しい (布村和彦) **写真**

◎オオハム 1/21 枚方市淀川 冬羽1羽  
下流に向かって流れるように通過。(田中 宏) **下写真**



◎ゴイサギ 1/14 東大阪市川俣1丁目  
長瀬川2羽  
朝の通勤途中に確認  
日中、当地で見かけることは稀  
(納家 仁) **右写真**



◎ヘラサギ 1/13～2/6 岸和田市久米田池 1羽  
(松井謙友) 1/16 撮影 **下写真**

※久米田池では2017～2018年の冬に2羽飛来して以来の記録。今回の個体はおでこの部分の羽毛が抜けているので、個体識別が可能。



◎クイナ 2/10 枚方市天野川河口 1羽 (松下孝雄)  
◎バン 1/11 和泉市黒鳥町城の池 1羽  
パンを与える人が来て、池にいたオオバン14羽が集合。  
バン1羽が混じりパンを食べていた。(納家 仁)  
◎ダイゼン 1/12 岸和田市岸和田貯木場 5羽越冬中  
(納家 仁) **写真**  
◎ハマシギ 1/20 岸和田貯木場 15羽越冬中  
昔に比べ越冬個体数が大きく減少。(納家 仁) **下写真**



◎ヤマシギ 1/11 東大阪市枚岡公園 1羽  
休耕田から飛び立った所を発見。餌を食べる際に嘴を差し込んだと思われる穴も見つけました。(鶴瀬麻弥)

◎アオシギ 11/22,23 豊能町初谷川 1羽  
(熊谷 隆) **写真**

◎ユリカモメ 1/20 岸和田貯木場 (忠岡側) 518羽



水面に帯状に浮かんでいた群れ(上写真：群れの一部)が、17:06から08にかけて2群に分かれ、南の海上ねぐらに向かって飛び立つ(右写真)。写真から個体数が正確にカウントできた。  
(納家 仁他)



◎シロカモメ 1/28、2/2 堺市大和川 第1回冬羽 1羽  
(岡林 猛) **写真**

◎ニシセグロカモメ 2/2 大和川第2回冬羽 1羽  
昨年11月より同一個体が時々渡来。(岡林 猛)

◎オオコノハズク 1/11 枚岡公園 1羽  
生駒の調査に同行中、偶然遭遇。カメラを忘れたため、双眼鏡とiPhoneを駆使し撮影。(鶴瀬麻弥) **写真**

◎コミミズク 1/21 三島郡島本町 1羽  
夕方、見に行くと暗かったが、近くの樹に止まってくれた。  
IS03200 露出1/50。  
明るさ超補正  
(堤 潤) **右写真**



◎カワセミ 2/3 東大阪市長瀬川 求愛行動  
 少し距離をあけて止まっていた♀が「チーチー」と  
 鳴きながら横歩きして♂に接近、♂が飛び立ちまた少し  
 間をあけて止まるというのを繰り返す。(納家 仁)  
 左♀ 右♂ くちばしを上にあげるポーズをとる **写真**



◎ハシブトガラス 1/25 交野市ほしだ園地  
 フェンスに止まっていたが、目の前に降りて来て、上手  
 にキノコを3つもくわえた。キノコを食べるとは知らな  
 かった。(小野野司) **写真**

◎ヒバリ 2/2 堺市南区鉢ヶ峯寺 初さえずり  
 暖冬の影響か例年よりも早く数羽が空高く舞いながら  
 さえずっていた。(塚田順一他、定例探鳥会参加者)

◎トラツグミ 1/19 山田池公園 1羽 (松下孝雄)  
 ◎ハチジョウツグミ 1/28 2/4 天王寺公園 1羽  
 公園には大量のツグミが滞在しているが、ハチジョウツ  
 グミはいつも単独行動。鳴き声は亜種ツグミと同じなの  
 に、行動は別。(駒井秀雄) **写真** 2/4 撮影

◎ニシオジロビタキ  
 12/16～岸和田市  
 蜻蛉池公園 1羽  
 越冬中



(松井謙友)  
 1/1 撮影 **右写真**

◎コイカル 1/21 堺市大泉緑地 ♀1羽 (松井謙友)  
 ◎コイカル 1/31 山田池公園 ♀1羽  
 イカル 10羽ほどの群れと一緒に行動 (松下孝雄) **写真**  
 ◎オオジュリン 2/2 枚方市牧野探鳥会  
 右足に足環付き。(幅 良三)

珍しい鳥の記録だけでなく、身近な野鳥の繁殖記録  
 や行動記録などをぜひお寄せください。  
 大阪支部ホームページから簡単に投稿できます。  
 観察年月日、地名(市域・地区名など)、個体数、  
 性別など分かる範囲で記入してください。また特に  
 珍しい鳥の場合は写真があれば添付してください。

**■ レンジャク情報 ■** 昨冬はほとんど記録のなかったレンジャク類、今冬は  
 1月頃から府内各地で多く見られています。寄せられた情報をまとめてみました。  
 3月は、町中など思いがけない場所でレンジャクと出会えるチャンスがあります。  
 観察された方はぜひ情報をお寄せください。



ヒレンジャク

- ・1/2 和泉葛城山 ヒレンジャク 50~60羽 (松井謙友)  
 一か所で落ち着くことなく、数分単位であちこちのヤドリギを飛び回っていた
- ・1/3~1/11 豊能郡能勢町野間 ヒレンジャク 43羽+ (熊谷 隆)
- ・1/5 堺市南区鉢ヶ峯寺 ヒレンジャク 40羽 (塚田順一他、定例探鳥会参加者)  
 定例探鳥会の鳥合わせ後に、ふれあいの森に40羽のヒレンジャクが飛来。
- ・1/10 堺市大泉緑地 ヒレンジャク 8羽 (松井謙友)
- ・1/12 豊中市 皿池公園 ヒレンジャク 6羽 (田中 宏) トウネズミモチの実をしきりに食べていた。
- ・1/12 堺市大泉緑地 ヒレンジャク 12羽 (定例探鳥会) 公園西縁のトウネズミモチでヒレンジャク
- ・1/31 枚方市山田池公園 ヒレンジャク 11羽 (松下孝雄)  
 ヤドリギの実を食べに、7羽の群れ、1時間後には4羽の群れがやってきて数回ヤドリギの中に飛び込み、  
 実を食べ近くに木の枝に止まって休憩を繰り返して飛んでいった。
- ・2/2 豊能郡能勢町野間 ヒレンジャク 17羽+ (熊谷 隆)
- ・2/6 堺市 大仙公園 ヒレンジャク 10羽± (松井謙友) クロガネモチの実を食べる
- ・2/7 豊能郡豊能町光風台 全体で178羽±でキレンジャクは1割程度 (熊谷 隆) **写真 (P25)**
- ・2/9 豊能郡豊能町光風台 全体で450羽±でキレンジャクは5%程度 (熊谷 隆)  
 電線のレンジャクを小分けして撮影しPC上でカウントしたところ395羽。すぐ横のクスノキと家の屋根に  
 いた別途50羽程度の群れがカウントできなかったので計450羽程度と思われる。  
 25年近く住んでいるが過去最高の観察数でした。
- ・2/10 堺市南区 梅・美木多駅前 ヒレンジャク 110羽± (納家 仁)  
 通勤途上の朝7時、ヒーヒーという鳴き声で木に止まる群れに気づく。10分ほどで飛び去ってしまった。
- ・2/11 堺市西区 浜寺公園 40羽± (松井謙友) 水飲みシーンを観察できた。
- ・2/13 和泉市府中町榎尾川 150羽+ キレンジャク数羽混じる (松井謙友)  
 川辺の樹に集合し、一斉に水飲みと水浴び

※レンジャクを見つけるために ①好物の木の実のなる木(トウネズミモチ、クロガネモチ、ヤドリギ等)の  
 多い場所をふだんからチェックしておく。②群れで飛ぶ鳥に注意する。③ヒーヒーという特徴のある鳴き声  
 を聞き逃さない ④よく水を飲みにやってくるので水場にも注意

# 鳥 信 投稿写真

2019.11～ 2020.2



キレンジャク 豊能町光風台 (熊谷 隆)



ヒレンジャクの群れ 能勢町野間 (熊谷 隆)



ハチジョウツグミ 天王寺公園 (駒井秀雄)



コイカル♀ 山田池公園 (松下孝雄)



オオコノハズク 枚岡公園 (鶴瀬麻弥)



アオシギ 豊能町初谷川 (熊谷 隆)



ハシブトガラス 交野市ほした園地  
キノコを食べる (小野款司)



ウミアイサ 羽曳野市下青井池 (布村和彦)



ダイゼンの群れ 岸和田貯木場 (納家 仁)



シロカモメ 大和川 第1回冬羽 (岡林 猛)

## ◇ 幹事会報告（1月・2月）◇

### ◆ 1月幹事会（1月7日 出席幹事10名）

【報告事項】主なもの

- ・「企業向けバードウォッチング案内人講座」の提案

【審議事項】主なもの

- ・探鳥会リーダー研修会・交流会（3/29）の役割分担
- ・石川河川公園 野鳥フェア「鳥っておもしろ！」（2/22～24）  
⇒協力団体として参画する

### ◆ 2月幹事会（2月4日 出席幹事7名）

【報告事項】主なもの

- ・「企業向けバードウォッチング案内人講座」提案の途中経過

【審議事項】主なもの

- ・大阪シニア自然カレッジ野鳥観察会についての協力依頼  
⇒受託の方向で調整（リーダーの確保）

### ご寄付 12月～1月

1,000円：2名 1,500円：1名

ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

### 新入会員の状況（11/16～1/15）

新しいなかま 正会員20名、むくどり会員21名

## 2020年度 定時総会 5月24日（日）

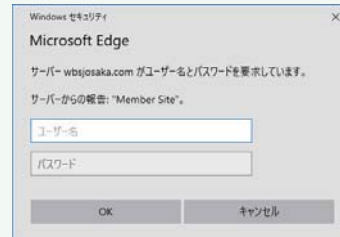
南港野鳥園定例探鳥会 終了後に開催

詳細は次号むくどり通信でお知らせします

### ■ 会員専用ホームページについて

会員専用ページにアクセスして「ユーザー名」と

「パスワード」を入力すると目的のページが閲覧できます。



今回のユーザー名とパスワード

ユーザー名：renjaku

パスワード：waxwing3

大阪支部のホームページ用サーバーを従来の「gmob」および「fc2」から「xserver」に変更しました。新しいホームページURLは <https://wbsjosaka.com/> となります。お気に入り等への変更をお願いします。

## 特別緑地保全地区の計画決定にあたって

～南部丘陵の自然を見守っていきます～

### 鉢ヶ峯定例探鳥会の開始と目的

鉢ヶ峯で定例探鳥会を始めたのは、1993年3月からでした。今年3月で27年経過します。ここで始めた目的の一つには、自然保護があったと思っています。

1990年に堺市南部丘陵に新たにゴルフ場建設の計画が持ち上がったとき、鉢ヶ峯探鳥会リーダーの清水さんを始め、私たちは「鉢ヶ峯の自然環境とゴルフ場問題を考える会」（現、鉢ヶ峯の自然を守る会）を立ち上げ、4万人を超える市民の署名を集め、反対運動をしました。その結果、堺市はゴルフ場の新設を認めず「ゆとりとふれあいの場構想推進協議会」を設置、ゴルフ場に代わり、2000年4月「緑のミュージアム・ハーベストの丘」を開園しました。

その後、私たちは（財）日本野鳥の会「甦れ！里山」募金による支援のもと、「鉢ヶ峯里山公園構想」を発表し、堺市にも提案しました。そんなこともあって、2006年に実現したのが「堺自然ふれあいの森」です。

### 南部丘陵の緑地保全について

2010年6月、堺市は南部丘陵の緑を保全するため「緑の保全と創出に関する条例」（里山保全条例）を制定。丁度、南部丘陵で新たな残土処分地造成計画が持ち上がっているときでした。この計画は、施主の学校法人の事情でストップしました。

2012年11月には、定例探鳥会のフィールドも含む160haを、特に保全を優先すべき地区に指定し、そのうち特に開発圧の高い14haを、遅ればせながら今年の2月3日、都市緑地法に基づき都市計画決定されました※（鉢ヶ峯寺特別緑地保全地区：堺市告示第27号）（地図と写真参照）。当地区内では土地の開墾など一定の行為が制限されます。

### これからのこと

しかしながら緑地保全や生物多様性は、法律を作ただけでは実現しません。これからは、行政、土地所有者、市民が協働で取り組むことも重要です。

老齢ですが死ぬまでバードウォッチング、千の風になってでも当地の自然を見守り続けたいと思っています。皆様には今後ともよろしくお願い致します。

横島 彪（よこじま たけし） 当会会員



特別緑地保全地区周辺の眺望



位置図

※ <http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/keikakunitsuite/>

## 次号 263 号 (5 月号) 予告

### ■特集 鳥の羽根を楽しもう

大好評だった室内例会「鳥の羽根鑑定団」を受けて、むくどり通信でも鳥の羽根の特集を！ 羽根の収集や楽しみ方などの他、会員の皆さんの貴重なコレクションや羽根にまつわるエピソードなども紹介したいと思います。

皆さんの投稿をお待ちします。羽根コレクションはデジタル画像にして投稿してください。種名、収集日、収集場所などを明記してください。〆切 3 月末日

### 「むくどり通信」は、みんなでつくる機関紙です！

身近なフィールドでの話題や旅行に出かけられた時のお話などを「そんぶぽすと」のコーナーにお寄せください。

投稿用メール：[mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp](mailto:mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp) (広報 G)

※鳥信は支部 HP の送信フォームから簡単に投稿できます。

## 編集後記 Editor's Note

◆早春、仕事先の九州で満開の河津桜を見た。濃いピンクの花びらは、寒さで凍えた身体に元気をくれる。立春を過ぎてからやってきた寒波が運んできたのかレンジャクの便りがあちこちで聞かれている。こちらも元気をくれる早春の楽しみだ。(もず)

■鳥たちの繁殖期も始まり、自宅周りのケリがけたたましく鳴く声がよく聞こえるようになりました。(のみや)

◎見守りカメラの前で繰り広げられた、「いずみ」と「きらら」の繁殖行動などを、「泉大津ハヤブサ・レポート 2006」、BIRDER 誌の 2007 年 10 月号特集「疾風のハヤブサ」～都市に生きる～で発表した当時がなつかしく思い出されます。いろいろ考えてつくった巣皿が今もハヤブサに気に入られて使われていることは、うれしい限りです。(HN) ★今月は盛りだくさんの内容で紙面が狭い(つかぼん)

## むくどり会員 (1 年間限定お試し会員) 募集中

年会費：1000 円 (入会金不要) 期間：1 年間のみ限定

特典：探鳥会の参加費 100 円 (会員扱い)

機関紙「むくどり通信」年 5 回配布

申込方法：郵便振替【00950-0-90551】振込用紙に住所・

氏名・年齢・電話番号を記入のこと

## ◆探鳥会リーダー研修・交流会◆

日時：2020 年 3 月 29 日 (日) 13:00 ~ 17:00

場所：NEXT21 2 階ホール

内容：フィールドマナー、個人情報保護、探鳥会のリスクマネジメント、傷害保険、初心者バードウォッチング、定例探鳥会の PR 方法 等

■各定例探鳥会から最低 1 名ご参加ください。

■終了後の懇親会にもぜひご参加ください。

■今後の探鳥会のあり方などについても意見交換しましょう。

## 探鳥会リーダー・スタッフ大募集

大阪支部は全国の支部の中で最も多くの探鳥会を開催しています。しかし、一部の定例探鳥会ではリーダー不足が深刻で、定例探鳥会を中止せざるを得ない状況となってきています。

探鳥会は野鳥を見る楽しさを伝え、野鳥や自然を愛する仲間を増やすために最も重要な取り組みと言っても過言ではありません。

リーダーやスタッフになるには特別な経験や知識、資格等は不要です。ビギナーの気持ちに分かり、親切に対応できる方、人とのつながりを大切にできる方、ぜひリーダーやスタッフとしてお手伝いいただけませんか。やってみようと思われる方は、ぜひこの研修・交流会にご参加ください。大阪支部長 松岡三紀夫

## ■大阪支部事務所の開所曜日と時間について

・毎週火曜日・金曜日 (10 時～18 時) ※祝祭日は閉所  
予告なく変更することがありますので、事務所に  
お越しの際には事前にご連絡ください

## ■支部事務所の電話番号・FAX 番号

電話：06-6766-0500 「ごひゃく種」見たら

FAX：06-6766-0501 次は「ごひゃくいち」

※支部事務所では傷病鳥やヒナ鳥の救護等に関する問い合わせ、珍鳥の生息情報に関する問い合わせには対応いたしませんのであらかじめご了承ください。

鳥を通じて自然に親しみ、自然を守る運動を広げよう。

自然を守るなかまは全国に約 5 万人。会員の皆さんが地域の活動を支えています。

鳥を愛し、自然を愛するなかまをもっと増やそう。

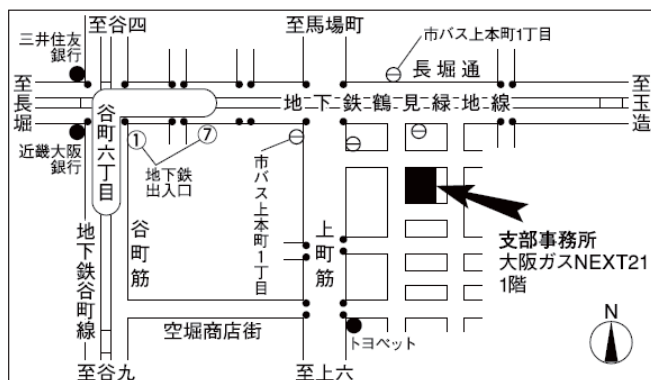
大阪支部のなかま  
正会員+むくどり会員

**1,952 人**

(2020 年 2 月 1 日現在)

## 住所変更等の連絡のお願い

転居等でむくどり通信が届かず事務所に戻ってくるケースがよくあります。住所変更されたときは、本部だけでなく支部事務所にも一報入れていただけるようよろしくお願いします。



日本野鳥の会 大阪支部報 **むくどり通信** No.262(2020.3.1)

## 日本野鳥の会 大阪支部

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町 6-16 NEXT21・1F

TEL. 06-6766-0500

開館日時：毎週火・金：AM10時～PM6時

(ただし祝日は休館)

FAX. 06-6766-0501 (24 時間受付)

e-mail: [main@wbsjosaka.xsrv.jp](mailto:main@wbsjosaka.xsrv.jp) (大阪支部事務所)

[mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp](mailto:mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp) (広報グループ)

URL: <https://wbsjosaka.com/>

振替 00950-0-90551

編集担当：納家 仁、塚田順一、森山春樹、布村和彦

※ 記事、写真、イラスト等の無断転載、複製を禁ず。

## 第5回 シルバー・バードウォッチング（ご長寿探鳥会）の案内

2020年3月20日（金・祝）大阪城公園

集合：9時30分 大阪城公園 森之宮側噴水前

解散：12時 飛驒の森

持ち物：筆記用具、水筒、あれば双眼鏡、雨具

事前申し込み必要、先着30名

参加費（傷害保険料、資料代）：会 員 100円

非会員 200円

雨天の場合：前日19時に天気予報で大阪の降水確率が60%以上の場合は中止

申し込み方法（次のいずれかで）

- ① FAX 06-6766-0501
- ② 支部ホームページからお申込みフォームを利用
- ③ 支部事務所宛でハガキの送付

それぞれ 氏名、住所、電話番号、性別、年齢、バードウォッチング歴を明記の上お申込みください。

第22回鳥類学講座 「岡山県高梁市におけるブッポウソウの繁殖生態」 講師 黒田聖子氏

日 時：3月28日（土）13:00～16:00

場 所：甲山森林公園会議室（阪急甲陽園駅から徒歩25分、阪神西宮駅からバス36分）

今回、講演をお願いしています黒田聖子さんは、岡山県吉備中央町と高梁市で2016年から2019年にかけて巣箱を利用して繁殖するブッポウソウの繁殖生態を調査されています。各巣箱の産卵日や一腹卵数、孵化日、巣立ち日など繁殖成績を調べたり、繁殖個体と幼鳥の標識調査、GPSロガーを用いた行動圏調査などから得られた研究成果をたっぷり聞かせていただきます。

参加費：1,000円 高校生以下無料 申し込み不要

終了後、演者を交えて有志による懇親会を予定しています。



広告

スワロフスキー オプティック

### SWAROVSKI OPTIK 探鳥会

3/28  
(土)



バードウォッチャーから絶大の信頼を得ている  
スワロフスキーの双眼鏡を試してみませんか？



スワロフスキーの双眼鏡の特徴・使い方から野鳥を見るポイントまで解りやすくご説明いたします。  
お仲間同士でもお一人でものご参加も大歓迎です。ぜひご参加ください。

服部緑地公園 午前の部 10:00～11:45頃 ※各部開始時間10分前までに集合  
午後の部 13:00～14:45頃

- ・日程：3月28日（土）（小雨決行・雨天中止） 募集締切：～3月23日（月）
- ・定員各：20名（先着順）
- ・貸出機材：ELシリーズ、CLコンパニオンブライト、CLポケット  
（ご希望者の数により途中で交代・交換をさせて頂く場合がございます。予めご了承下さい）
- ・参加費：1,000円（別途保険代：会員100円 非会員200円）  
参加者アンケートにお答えでスワロフスキーオプティックオリジナルピンバッチをプレゼント
- ・申込み先：メール：[swarovskioptik-info@velbon.com](mailto:swarovskioptik-info@velbon.com)  
（お名前・電話番号・ご希望の部・会員（むくどり会員含）か非会員かを明記してメールにて申し込み下さい）  
募集終了の場合は当社SNS、ウェブサイトにて告知致します。



- ・集合場所：服部緑地公園駅 西改札口を直進した前の広場（緑道）
- ・アクセス：地下鉄御堂筋線「緑地公園駅」西改札口下車

共催：ベルボン株式会社・銀座双眼堂・日本野鳥の会大阪支部

SWAROVSKI OPTIK

スタッフ：ベルボン株式会社 中島直人・銀座双眼堂 塚本英夫・日本野鳥の会大阪支部 久下直哉



<https://wbsjosaka.com/>

野鳥 大阪

検索

大阪支部ホームページでは探鳥会の案内やホットなイベント情報などを発信中！

# 一般探鳥会・平日探鳥会・植物観察会・U50・パーティ (2020年3月4日～2020年5月20日)

\*雨天の場合の判断について

## 探鳥会に参加しよう!

探鳥会に参加するときは、フィールドマナーを守り、自然と人に思いやりのある楽しい探鳥会にしましょう。

①鳥の生活を脅かすことや、草花や昆虫を採集することは控えましょう。

②ゴミはすべて持ち帰りましょう。

③先導の担当者より前に出ないようにしましょう。

④名札を付けましょう。

⑤大声で話したり、笑ったりすることは慎みましょう。

⑥喫煙は休憩時と昼食時に限り、歩行中は禁煙で! 周りの人への気遣いもわずれずに。

「雨天中止」と明示していない探鳥会・探鳥地は、原則として集合時に決行か中止かを判断します。  
ただし、気象警報発令時は中止、雷注意報発令時は、状況により中止します。

種別	テーマ/開催場所	開催日	集合・解散	交通/申込み	イベントの概要/注意事項ほか	講師/担当ボランティア
平日	京都御苑	3月4日	9:00 京都市営地下鉄・烏丸線・丸太町駅下車 京都御苑 間の町口入口前	* 前日19時前のNHKの天気予報で現地の降水確率が60%以上の場合は中止します。	古都京都が鳥でにぎわう季節です。2019年は御苑で、アトリ・キウイタダキ・ルリビタキ・ジョウビタキ・ツグミ・シメ・ビンズイおよび珍しく越冬中のエゾビタキ、昼食後は、鴨川まで歩き、カワアイサ・マガモ・ヒドリガモなどを観察しました。	松岡三紀夫、藤原、小山(朋)、桐山、八部、久下 連絡先:090-2389-2743
自由参加	アオバト・トラツグミ	(水)	13:30 現地・京都御苑内			
一般	古市古墳群	3月7日	9:00 近鉄南大阪線・藤井寺駅南口 バス停前	* 近鉄南大阪線・阿部野橋駅(JR/地下鉄天王寺駅すぐ) 8:34発～(河内長野行き準急)～藤井寺駅 8:47着 大人片道300円。集合場所は、改札を出て右、右側の階段を下りてすぐです。	藤井寺市と羽曳野市にまたがる東西約4km、南北約4kmの範囲の中に、たくさん古墳が集中して存在する場所があり、古市古墳群と呼ばれています。大小合わせて127基の古墳が確認(2010年末、現存44基)されており、4世紀後半～6世紀前半にかけての約180年間に造られたことがわかっています。 日本野鳥の会大阪支部(当時は、阪神支部)結成後まもなくの時期に古市古墳群周辺で探鳥会が開催された記録が残されています。百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を記念し、昨年に引き続き往時をふりかえるイベントを開催します。	上村 賢、中園、藤村、泉谷、杉本、山下 連絡先:090-8653-9165
自由参加	ヨシガモ・ノスリ	(土)	15:00 近鉄南大阪線・古市駅 東側広場			
パーティ	錦織公園	3月20日	9:10 南海高野線・金剛駅 東口 りそな銀行前 ※ 南海高野線難波駅 8:36発の橋本行急行 (乗車、金剛駅 9:00着)	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。 * 詳しい参加要項は、お申込みの方にファクシミリ・電子メールで送信します。 ファクシミリ:06-6766-0501(3/17締切り) メール:phoenicurus_aureus@tulip.ocn.ne.jp(3/19締切り)	大阪府営錦織(にしこり)公園は、丘陵の地形がそのまま生かされた公園で、森林や草地、せせらぎや溜め池など、「里山」の環境が豊かに残されており、大阪支部では、2001年5月から毎月第四日曜日に定例探鳥会を開催しています。 今回のパーティでは、いつもの定例探鳥会とは異なるルートで探鳥します。冬の渡りの小鳥たちの旅立ち前の姿、留鳥の繁殖行動などをじっくりと観察しましょう。その鳥たちを狙う猛禽類に出会えるかもしれません。	福壽隆司、駒田、高橋、泉谷、上村 * お問合せ・連絡は左記メールアドレスにお願いします。
事前申込み	オシドリ・シメ・イカル	(金・祝)	15:00 南海高野線・滝谷駅 改札口			
U50限定	淀川三川合流	3月28日	9:00 京阪線・石清水八幡宮(旧・八幡市)駅 改札前	* U50(50歳以下) 限定のヤング探鳥会です。 ※ 前日19時前のNHKの天気予報で現地の降水確率が60%以上の場合は中止します。	木津川・宇治川・桂川の三つの川が淀川となる合流地点の付近は、水辺の鳥・山野の鳥が同時に楽しめるところです。午前中にお花見の場所取りをしてから探鳥し、昼からは背割り堤の桜並木の下で、お弁当を広げてお花見をします(石清水八幡宮駅前、お花見弁当購入可能です)。	井上・駒田・佐々木 ほか、U50有志 U50の活動等についてのお問合せは、U50-osaka@outlook.jp に連絡
自由参加	探鳥会 & お花見	(土)	15:00			
植物+α観察会	大阪市大私市植物園	3月31日	9:30 京阪電車交野線私市駅前広場	* 集合場所は、ほしだ園地・くろんど園地探鳥会のスタート地点と同じです。 * 双眼鏡、弁当をご持参ください。あれば、樹木図鑑・サクラ図鑑。 * 植物園への入園料:大人350円・中学生以下は無料。大阪市在住者で65歳以上は無料。 また、交野市在住者で65歳以上は無料(登録制) * カラー資料を準備しますので、参加費の他に資料代実費として100円をお願いします。 また、資料の過不足を避けたいので参加される方は、平宛にメール or 電話(右記)で連絡ください。	大阪市大私市植物園は終戦直後に開園され70年、園内の日本産・海外原産地ごとの樹木見本園では、樹木が成長し、巨樹レベルの木が多く残っています。今回はカタクリ・ミスミソウなど日本在来種の野草の花、日本に自生している樹木園ではクロモジ・アブラチャンなどの花、更にさくら山ではイトザクラ・ヤマザクラなどを中心に春の花を楽しみます。 さらに、1941年大坂層群と呼ばれる大阪平野の地下100万年前の地層から出土した植物化石に、大阪市大教授三木茂博士がメタセコイアと名付けていた木は、1945年実在していたことから「化石の木」と呼ばれています。このメタセコイアの最初に日本に入ってきた木があり、その名付け元となったアメリカ原産のセコイアも同じ場所に植栽されているのを観察します。	平 軍二 連絡先:090-6901-1425 Eメール:g-hira@nifty.com
※ 自由参加ですが、予めご連絡ください。	カタクリ・メタセコイア サクラ山	(火)	14:00 現地・私市植物園内			
一般	飛鳥 高松塚・キトラ	4月4日	9:15 近鉄吉野線・飛鳥駅 改札前広場	コース:飛鳥駅～欽明天皇陵～国営飛鳥歴史公園・高松塚周辺地区/中尾山古墳～檜隈寺跡・於美阿志神社～国営飛鳥歴史公園・キトラ古墳周辺地区～壺阪山駅(歩程約8.5km) ※ 近鉄南大阪線・大阪阿部野橋駅(JR・地下鉄天王寺駅) 8:20分発の吉野行急行に乗り、飛鳥駅 9:02着 ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。集合時刻に訂正がある場合は、ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。	「飛鳥・高松塚探鳥会」も15回を迎えます。昨年にとはコースを逆とし、「国営飛鳥歴史公園・高松塚周辺地区」を中心に野鳥を観察し、国の特別史跡「キトラ古墳」の周辺に整備された「国営飛鳥歴史公園・キトラ古墳周辺地区」まで足を延ばします。 春を迎えた飛鳥の里では、ヒバリが空高く舞い上がり、大きな声でさえずる中、キジの親子が餌をさがして田畑を歩いているところやケリの親が雛を守るためにけたたましい警戒の声をあげて天敵を追い払うところなど、子育てのようすを身近に観察することができます。	福壽隆司、藤村、泉谷、杉本、鶴瀬(由)、鶴瀬(麻)、上村、 連絡先:090-8653-9165
自由参加	キジ・ケリ・ヒバリ	(土)	15:00 近鉄吉野線・壺阪山駅			
平日	奈良公園	4月8日	9:30 近鉄奈良線・奈良駅 東口コンコース	* 近鉄・奈良駅には、鶴橋駅8:43発近鉄奈良行快速急行に乗り、奈良駅9:16着です。 ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。集合時刻に訂正がある場合は、ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。 * 前日19時前のNHKの天気予報で現地の降水確率が60%以上の場合は中止します。	早春の鹿の公園でのんびり探鳥を楽しみましょう。アカハラ・シロハラ・ビンズイ・ニューナイスズメ・ヒレンジャクなどを期待しましょう。今年はどうなるかを楽しみに公園内を5kmほど散策します。	松岡三紀夫、藤原、小山(朋)、桐山、八部、久下 連絡先:090-2389-2743
自由参加	アカハラ・ヒレンジャク	(水)	14:30 現地・奈良公園内			
パーティ	甲子園浜	4月29日	9:00 阪神線・甲子園駅東口 改札前南側	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。 * 詳しい参加要項は、お申込みの方にファクシミリ・電子メールで送信します。 ファクシミリ:06-6766-0501(4/24締切り) メール:phoenicurus_aureus@tulip.ocn.ne.jp(4/28締切り)	甲子園浜は、阪神間に唯一残された自然の砂浜・干潟・磯がある貴重な浜です。春のこの時期には、自然の砂浜や干潟、磯をめざして、数多くのシギ・チドリのなかまが甲子園浜を訪れます。 今回のパーティでは、よく似た姿のシギ・チドリたちの見分けに挑戦します。お気に入りのシギ・チドリを見つけてみましょう。また、魚を専門に狩るミサゴに出会えるとうれいですね!!	福壽隆司、駒田、高橋、嶋、上村 * お問合せ・連絡は左記メールアドレスにお願いします。
事前申込み	チドリ・シギのなかま	(水・祝)	15:00 ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。 発着時刻は、参加要項でお知らせします。			
一般	竹内街道	5月2日	9:00 近鉄南大阪線・上ノ太子駅 南改札前	コース:上ノ太子駅～春日新池～(竹内街道)～春日新池～太子町役場～太子・和みの広場/叡福寺～梅川橋～喜志大橋～粟ヶ池共園～喜志駅(歩程約7.5km) ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。集合時刻に訂正がある場合は、ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。	日本最古の官道(今でいう国道)といわれている「竹内街道(たけのうちかじどう)」をたどり、2014年に3羽、2015年と2016年に5羽、2017年に6羽、2018年に2ペア・計7羽、2019年に4羽、合計30羽の子育てに成功したチョウゲンボウが営巣する太子町役場の庁舎に向かいます。 この春の繁殖も成功するよう、見守りましょう。	浅野宏幸、福壽、藤村、泉谷、杉本、山下、上村 太子町チョウゲンボウを守る会 連絡先:090-8653-9165
自由参加	チョウゲンボウ	(土)	15:00 近鉄長野線・喜志駅 改札口			
パーティ	枚岡公園	5月6日	9:10 枚岡神社鳥居前 ※ 近鉄奈良線・枚岡駅すぐ(定例探鳥会と同じ時刻・場所) ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。 発着時刻は、参加要項でお知らせします。	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。 * 詳しい参加要項は、お申込みの方にファクシミリ・電子メールで送信します。 ファクシミリ:06-6766-0501(4/28締切り) メール:phoenicurus_aureus@tulip.ocn.ne.jp(5/5締切り)	枚岡公園は生駒山系の山麓に位置するサクラ、クヌギ、コナラ、マツなどを主とした森林公園です。展望台から眼下に広がる大阪平野や大阪湾を眺めるのも楽しみの一つです。 新緑が眩しい歩道を散策しながら、ここに暮らす山の鳥や繁殖のために渡ってきた小鳥たちの暮らしを探ります。定例探鳥地でもある枚岡公園の一番楽しい季節です。綺麗な歌声にも耳を傾けましょう!	福壽隆司、駒田、高橋、鶴瀬(由)、鶴瀬(麻)、嶋、上村 * お問合せ・連絡は左記メールアドレスにお願いします。
事前申込み	オオルリ・キビタキ	(水・休)	15:00			
平日	甲子園浜	5月20日	9:00 阪神線・甲子園駅(東側・梅田寄り) 改札口	* 阪神・梅田駅 8:43発の甲子園区間急行に乗り、尼崎駅 8:54着、8:55発の神戸三宮行快速急行に乗り換え、甲子園駅 9:00着。近鉄線からは、大阪難波駅 8:36発の神戸三宮行快速急行に乗り、乗り換えなしで甲子園駅 9:00着。 ※ 3/14にダイヤ改正が予定されています。集合時刻に訂正がある場合は、ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。 * 前日19時前のNHKの天気予報で現地の降水確率が60%以上の場合は中止します。	甲子園球場にほど近い甲子園浜は、大阪湾にわずかに残っている貴重な干潟の一つです。ここは、春の渡りのシギ・チドリが比較的近く観察できるのが魅力です。	松岡三紀夫、藤原、小山(朋)、桐山、八部、久下 連絡先:090-2389-2743
自由参加	シギ・チドリのなかま	(水)	14:00 現地・甲子園浜			

※ 一般の方の参加費について:3月までは、200円ですが、4月以降は、300円といたします。ぜひ、この機会に会員登録/むくどり会員登録をお願い申しあげます。なお、これまでどおり、大学生の参加費は、100円、高校生以下の方の参加費は、無料といたします。

# 定例探鳥会 (2020年3月1日～2020年5月24日)

- ①トイレ注意マークのある探鳥地は、探鳥会終了時間までトイレはありませのでご注意ください。
  - ②登山靴マークは探鳥地に急傾斜の登り坂があることを示しています。
  - ③定例探鳥会の終了時間は鳥の出方により時間が前後しますので、目安としてください。
- とくに、終了時間が12:00となっている探鳥会に遠方よりご参加の方は、念のため弁当をご持参ください。
- ・持ち物: 弁当(＊)・水筒・雨具・帽子・タオル・名札・観察用具・図鑑など。
  - ＊行事の開始時刻等により、弁当が不要な場合があります。各行事の注意事項をご確認ください。
  - ・参加費: 会員(むくどり会員を含む)・大学生 100円、一般(3月は200円、4月以降300円)。高校生以下は無料(傷害保険請求のため、名簿の記入が必要)。
  - ・万一事故が発生した場合、傷害保険に加入している場合は、応急処置以外の責任は負いかねますのでご了承ください。

# 2020年3月～2020年5月 探鳥会一覧 (むくどり通信262号)

## 探鳥会に出かけよう!

開催日	探鳥地	開始～終了	集合場所	担当ボランティア
第一日曜	鉢ヶ峯	9:15～14:00 *雨天中止	東北高速鉄道 泉ヶ丘駅南側(バス停隣) いずみがおか広場	清水俊雄、横島、常石、塚田、富山、谷越 連絡先: 072-299-1779
	枚方牧野	9:00～14:00 *雨天中止	京阪枚方市駅 ラポールひらかた前 ※解散は、牧野駅または御殿山馬場	平 軍二、南(茂)、前田、甲田、西脇、香月、新名 連絡先: 090-6901-1425
	万博公園	9:30～15:00	現地 自然文化園入口 太陽の塔前 (大阪モルメル万博記念公園駅下車) (参加費の他に公園入場料260円)	足立道成、平、有真、山口、橋本(寿)、田中(宏)、中筋、橋本(昌)、大矢 連絡先: 090-1897-5292
第二土曜	服部緑地	9:00～12:00 *雨天中止	北大阪急行 緑地公園駅 西出口改札前	杉田福松、西野、江津 連絡先: 090-6066-4366
	枚岡公園 (生駒山)	9:10～15:00 *雨天中止 ※早朝は7:00～8:50	近鉄奈良線 枚岡駅下車 枚岡神社鳥居前 ※定例のみ参加される方は9:10に集合	福壽隆司、谷村、梶原、浅尾、中島、室谷、西本 連絡先: 090-3034-2588
第二日曜	大泉緑地	9:30～14:00	現地 花と緑の相談所前 (地下鉄御堂筋線新金岡駅下車、東へ徒歩15分)	岩井 智、若林、芝池、藤村、山田、奥田、吉田、杉本、川相 連絡先: 090-4291-7711
	山田池公園	9:30～14:00	現地 公園北入口駐車場 (京阪本線枚方市駅下車、北4番バス乗り場より藤阪ハイソ行9:02発、出屋敷バス停下車)	森山春樹、稲森、堤(美)、南(茂)、伊東 連絡先: 090-1679-0146
	箕面公園	8:30～15:00 *雨天中止	阪急 箕面駅前	佐藤雅史、清原、御旅屋、中塚(志)、中塚(美)、真森 連絡先: 072-724-7054
第三土曜	鶴見緑地	9:00～14:00	地下鉄 鶴見緑地駅改札口前	田中雄治、太田、畑中、杉本、山岡 連絡先: 06-6911-7634
	緑の文化園	9:40～14:00 *雨天中止	JR学研都市線 四条駅東口午前9時 または緑の文化園 森の宝馬駐車場	幅 良三、日比野、奥田、長者原 連絡先: 090-2112-3274
	淀川	9:00～12:00 *雨天中止	地下鉄谷町線・堺筋線 阪急千里線 天神橋筋六丁目駅 北側改札口	小西 武史、橋本、西脇、安竹 連絡先: 090-6600-1517
第三日曜	能勢	9:30～12:30	能勢電鉄 砂見口駅前権荘橋場 (阪急・川西能勢口駅乗換) ※山道も歩きますので、足元に十分ご注意ください。	原 直、宮脇、大谷、林、声原(智)、芦原(義)、佐藤(睦) 連絡先: 070-4807-2058
	石川	9:00～12:30	近鉄長野線・南海高野線 河内長野駅近鉄側広場	那須正治、福岡、若林、吉田 連絡先: 0736-36-0297
第四土曜	男里川	9:30～13:00	南海線 樽井駅前	中野勝弥、北野谷、榮本、中田、天野 連絡先: 072-444-4312
	ほしだ園地 (3月28日、5月23日)	9:30～15:00 *雨天中止	京阪交野線 私市駅前 (京阪本線枚方市駅乗換)	平 軍二、友田、神戸、近藤 連絡先: 090-6901-1425
	くろんど園地 (4月25日)		※ほしだ園地は奇数月開催、くろんど園地は偶数月開催です。	
第四日曜	南港野鳥園	9:30～12:00	現地 展望塔内(南港7カボート線 ルートセンター前駅下車、西へ徒歩15分)	小西 武史、松岡、田中(宏)、西野、江津 連絡先: 090-6600-1517
	大阪城公園	9:00～14:00	JR大阪環状線 大阪城公園駅前	齋藤淳、齋藤(佐)、佐藤(勇)、寺尾、赤塚、田良、川相、荒木 連絡先: 080-3106-8146
	錦織公園	9:30～14:30	現地 パークセンター前(南駐車場) 近鉄長野線 滝谷駅徒歩約20分、 近鉄長野線 滝谷駅不動態徒歩約20分)	藤崎 裕、淺野、泉谷、玉邑、山下、上村 連絡先: 090-8653-9165

- ※ 枚方牧野3月定例探鳥会は、3月1日(日)に淀川寛平マラソン2020が現地で開催されるため、3月7日(土)に変更します。
- ※ 山田池公園は、2020年3月をもって大阪支部主催の定例探鳥会は終了いたします。4月以降は、第一日曜開催の枚方野鳥の会主催の探鳥会にご参加ください。
- ※ 枚岡公園4月定例探鳥会は、第一部として早朝探鳥会(7:00～8:50)、第二部として通常の定例探鳥会(9:10～15:00)の二部構成とします。一般の方の参加費については、3月までは、200円ですが、4月以降は、300円となります。ぜひ、この機会に会員登録/むくどり会員登録をお申し込みください。なお、これまでもあり、大学生の参加費は、100円、高校生以下の方の参加費は、無料といたします。



探鳥会が初めての方、初心者の方も、お気軽にご参加ください。  
 スズメやヒヨドリ、モズやシジュウカラなど身近な野鳥のほか、  
 夏はツバメ、冬はカモのなかま、春と秋にはキビタキやオオルリ、  
 水辺のシギ・千ドリのなかまなど、観察するポイントをていねいに解説、野鳥観察の楽しさをお伝えします。

## やさしいもち

野外活動、無理なく楽しく  
 採集は控えて自然はそのままと  
 静かに、そーっと  
 一本道、道からはずれないで  
 気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑  
 持って帰ろう、思い出とゴミ  
 近づかないで、野鳥の巣

日本野鳥の会大阪支部 企画グループ  
 06-6766-0500 (火・金 10:00～18:00)